

# 教育学部・教育学研究科授業評価報告書

2009 年度

京都大学大学院教育学研究科  
部局自己点検・自己評価委員会

## ■はじめに

矢野智司(大学院教育学研究科研究科長)

本報告書で学生の授業アンケートを実施して以来5冊目の『授業評価報告書』となります。この授業アンケートを最初に企画・作成した者の一人としていろいろと考えるところがあります。「教育」や「評価」を研究の対象としている研究科にふさわしいオリジナルで有意義なアンケートの在り方をめぐり、自己点検評価委員会で熱い議論を交わしたのが昨日のように思い出されます。その後、自己点検評価委員会では、アンケートの取り方や回収の仕方、またフォーマットの在り方などの変更をし、毎回のようにアンケート結果を読みとる解釈の枠組みの改善も図ってきました。このように本アンケートは基本形を維持しながらも、変わってきたのですが、変わらないのは、アンケートを実施して以来、学部学生・院生諸君の本研究科・学部の授業への満足度が極めて高いことです。

もちろんそのことで満足するわけにはいきません。本アンケートの課題をいくつかあげることができます。まず本アンケートの結果が授業やカリキュラムの改善にどのように役だったかを明らかにする必要があります。またその検証を踏まえて、さらに役だつアンケートに向けてデザインの改善が必要です。このアンケート結果は教員に伝えられ、また報告書をもとに毎年FDが実施されていますが、それだけでは不十分なように思います。

2番目の課題は、このアンケート結果を学生にフィードバックするシステムが十分でないことです。本報告書は事務の棚に置かれ学生も自由に持って帰ることができます。また2005年度版のアンケートからすべて報告書はホームページで公開されています。しかし、学生の多くはそのことを知らないようです(最近そのことを聞かされて驚きました)。学生に結果をフィードバックし、またこれがどのような改善に役だったかを伝えることで、アンケートの回収率はいまより高くなることでしょうし、またアンケートにこれまで以上に気をいれて答えてくれると思います(アンケート結果が公開されていることについては、来年度4月のガイダンスの時間に学生に伝えてもらう予定です)。

3番目の課題は、本研究科が責任部局として実施してきた教職関連授業のアンケートをとっていないことです。もちろんこれまでも教職の授業をかねている本研究科の授業は、アンケートの対象に入っています。しかし、教職の授業を全体としてトータルにアンケートをとったことはありません。非常勤の先生方に新たな負担をかけるのは申し訳ないのですが、教職の授業全体として捉えたときの他学部・他研究科の学生にとって満足度はどうなのでしょう。一度教職の授業に焦点を当てて授業のアンケートをとる必要があると思います。

まだまだいろいろと課題がありそうですが、研究科長と元自己点検評価委員会委員長の二つの目で見たとときの報告書の感想です。みなさんはこの報告書から関心に応じていろいろと読みとることができると思います。本報告書は「読んでもらえる報告書」ということをコンセプトで作られています。是非ご一読いただければと思います。



|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| ■はじめに .....                          | i  |
| ■1. 学生による授業評価について                    |    |
| 1.1 教育学部・教育学研究科の授業評価の現状と今回の調査 .....  | 1  |
| 1.2 何のための授業評価か .....                 | 1  |
| 1.3 何を評価するか・何を目的とするか .....           | 2  |
| 1.4 調査用紙の改善 .....                    | 3  |
| ■2. 授業評価の内容と実施方法                     |    |
| 2.1 「学生による授業アンケート」の構造 .....          | 5  |
| 2.2 実施した授業科目 .....                   | 5  |
| 2.3 実施した対象者 .....                    | 6  |
| 2.4 実施した日程 .....                     | 6  |
| 2.5 具体的な実施手順 .....                   | 6  |
| 2.6 回収率 .....                        | 6  |
| ■3. 「学生による授業アンケート」の結果と分析—2008年度との比較— |    |
| 3.1 回答者の属性 .....                     | 7  |
| 3.2 授業に対する評価 .....                   | 10 |
| 3.3 講義科目とゼミ科目の比較 .....               | 16 |
| 3.4 アンケートの効果について .....               | 22 |
| ■4. 「学生による授業アンケート」の結果を受けて            |    |
| 4.1 「学生による授業アンケート」の課題と改善の方向 .....    | 25 |
| 4.2 評価結果のまとめと公表 .....                | 26 |
| 4.3 報告書の利用法と評価 .....                 | 26 |
| ■ 資料                                 |    |
| 「学生による授業アンケート」集計 —学部・大学院比較版—         |    |
| 「学生による授業アンケート」集計 —文系・理系比較版—          |    |
| 「学生による授業アンケート」集計 —複数の問いの関係を比較—       |    |
| 「学生による授業アンケート」質問・回答用紙                |    |
| ■ 編集後記                               |    |



## ■ 1. 学生による授業評価について

### § 1.1 教育学部・教育学研究科の授業評価の現状と今回の調査

本報告書は、昨年度につづき 5 回目の学生による授業アンケート調査結果の報告書である。本学部・研究科が「評価の哲学」を探求し独自の評価（方法）を構築しようとする意図に基づいて、学生が主体的に取り組む授業評価、オリジナルな手法による授業評価を行うという基本姿勢については既に高い評価を得ている（『2006 年度学部評価報告書』参照）。

これまでの授業評価対象となった科目の形式は、2005 年度と 2006 年度は演習・ゼミナール形式の科目、2007 年度と 2008 年度は講義形式の科目であり、いずれの年度も演習・ゼミナール形式の科目のみか、もしくは講義形式の科目のみである。教育学部・教育学研究科の提供する授業にとって、講義には学部教育における基礎的な知識伝達と学問への関心をたかめる意義が認められる。その一方で、議論やディスカッション、研究発表など通じて多面的な考察力の養成や問題意識の深化を重視する演習・ゼミナール形式の授業も同様に重要な位置づけがなされているはずであろう。教育学部・教育学研究科の提供する授業全体を評価するに際しては、したがって、講義科目および演習・ゼミナール形式の両方を含めた授業評価が必要となるはずである。

そこで今回の調査ではこのような経過をふまえて、基本的に前回の方針を踏襲しつつ新しい視点を加えた授業評価アンケートを実施した。調査対象は前回と同じ講義科目に加えて演習・ゼミナール形式の科目も含め、ひとつにまとめた質問票を作成した（§ 1.4 を参照）。実施に先立って授業担当者に実施方法を説明した上で、授業担当者の授業中にアンケートを行なった（調査概要の詳細については「§ 2. 授業評価の概要」を参照）。

以下、このアンケートの基本的なコンセプトについて改めて記載しておきたい。（なお今回の授業アンケートは、基本的に昨年と同じ様式のものであるため、以下の「§ 1.2 何のための授業評価か」「§ 1.3 何を評価するか・何を目的とするか」は昨年とほぼ同じ内容である）。

### § 1.2 何のための授業評価か

一般に学生による授業評価は、授業の改善を目的としてなされるものである。また同時に、授業評価は、学生にとっても授業を振り返ることで自身の体験や経験への自覚が深まることが指摘されてきた。この場合、授業内容に関する認識の反省と、その授業を受けることでの自己の変化についての反省の 2 つを意味していた。ところで、本学部・研究科の学問の研究対象は「教育」であり、このことから本学部・研究科が授業評価をするとき、これらの目的とは別に他の学部・研究科とは異なる目的が加わることになる。

他の学部・研究科においては、数学や経済学がそうであるように、授業評価は達成すべき教育の目標とは外的な関係にあり、教員にとっても学生にとっても授業評価は授業内容とは直接に関係がない。それに対して、「教育」そのものが授業内容を構成する本学部・研究科においては、この関係は内的であり自己言及的な関係にある。命題的にいえば、私

たちは教育について教育している。私たちは学生の教育にたいする反省の力・考察の力を教育することを目的としている。学生が授業のなかで、教育とは何か、授業とは何か、知の伝達とは何か、さらには評価の技術、評価の心理学的基盤、評価の歴史、評価の社会的機能・国際比較、評価という制度といったことを、さまざまな学問的手法によって捉え直すことが目指されている。

このことを自覚するとき、私たちが実施しようとする授業評価に、この本学部・研究科の授業における特殊な関係が構造化される必要があると考えた。つまり単に授業評価をするだけではなく、同時に学生に教育・授業・評価とは何かを反省させ、学生の評価の力を養成することもまた授業評価の目的となる。そしてそのように養成された学生の評価力によって評価されることで、翻って教員自身の教育についての理論と実践のあり方が再形成されることになる。さらに、授業評価は授業を問うので終わらず、また授業のなかで改めてこのような授業評価とは何かそれぞれの問題意識から問われることになるだろう。このような循環的な視点をもつことではじめて本学部・研究科の授業評価となるだろう。

### § 1.3 何を評価するか・何を目的とするか

部局自己点検・評価委員会は、以上のような本学部・研究科の研究と教育の特質を踏まえた上で、京都大学の授業評価において使用された調査票や、その他の既成の授業評価調査票などを収集し比較検討しながら、改めて本学部・研究科の授業評価において何を問うべきかについて慎重に議論した。

小学校・中学校・高校といった学校の授業においては、各教科において到達すべき達成目標が決まっており、教科書を手がかりに授業を段階づけて進めることができる。それに対して、本学部・研究科の授業の多くは、小・中・高の学校の授業とは異なり、到達すべき達成目標を予め決めることができないものに関わっている。もちろん学問研究に不可欠な知識の伝達は、本学部・研究科のどの授業のなかにもあるし、また段階づけられた知識や技術の積み重ねが重視される授業もある。これまでの学説や歴史を正確に理解させることは授業において重要な課題である。しかし、このような側面は授業の一部をなすものでしかない。人間の教育を探究する本学部・研究科の理念から見ると、このような知識を十分に身につけるとともに、その知識をもとに一人ひとりの学生が、人間についての謎に出会うことや、教育ということの事象の深さに気づくこと、人と向かい合う自己のあり方への反省をもつこと、あるいは歴史的・社会的・制度的文脈のなかで具体的に問題を発見し捉えることなどが授業では重要である。

このように考えるとき、本学部・研究科では既成の授業評価調査票で問われるような評価の問いは妥当しない。例えば、「シラバス通りに授業をしたか」などの評価は2次的であり、むしろシラバスを逸脱してでも授業の流れのなかで、学生の自覚や反省が深まることの方が重要である。「わかりやすい授業であったか」は、「わかる」ということが学生の既存の知識体系に無理なく収まるようなことを意味しているとするなら、やはり2次的

なことである。学生の既存の枠組みを揺さぶり、新たな疑問や謎を感じさせ、自ら考えたり調べたりするようになる授業が「わかりやすい」授業などではありえないだろう。

それではどのような設問をすべきだろうか。もっと客観的な設問を設定すべきだろうか。評価を客観的なものに近づけようとする、「授業の開始と終了は時間通りでしたか」のように、たしかに客観的ではあるがほとんど無意味ともいえるべき設問となる。むしろ本学部・研究科の授業の目的が先に述べたようなものであるなら、評価はどこまでも主観的なものであることを自覚して設問を設定する方がよいと考えた。

以上のような授業観・評価観に立つとき、学生自身が自分にとってその授業に「満足しているか」、その授業から「得たものがあるか」、その授業は「役に立ったか」と反省することは、シンプルではあるが重要だと考えた。私たちはこの結果から授業が学生にとってどのように受け止められていることを知ることができる。しかし、私たちは受講した学生の満足度が高いからといってその授業が優れていたことを示すものとは考えない。また反対に満足度が低いからといってその授業に問題があるとも考えない。ここでは満足の質や理由がわからないからだ。それでもこのような設問は教員によってそれぞれの授業観と照らし合わせて結果を解釈し、自分の授業を捉え直すためには有益であるにちがいない。今回の評価の対象とする授業は、これまでの演習・ゼミナール形式の授業ではなく講義形式の授業ではあるが、その講義において学生の授業への自己の向上への期待・その達成感・心がけていることなどを自己評価してもらおうと考えた。当然このような設問から学生は教員が授業の構造をどのように捉えているのか、学生に対してどのような授業態度を期待しているのか、などを読み取るはずであり、またそのことを期待もしている。

そこで「学生による授業アンケート」は、次の3つのパートに分けて評価することになった。それぞれのパートが目指した評価については、次の■2で具体的に紹介する。

#### §1.4 調査用紙の改善

今年度調査の大きな改善点として、回答用紙を1枚にまとめたことがあげられる。前年度までは、マークシートを中心とするA票と自由記述を中心とするB票の2枚にわたる回答用紙であった。そのため、配布・回収・集計に負担が大きくなることに加え、また回収率もA票は比較的高かったが、B票がそれに比べると低かった。これは、B票を後日回収するという手続きによるものである。そこで今年度は1枚にまとめた回答用紙を用いることにより、一連のプロセスにかかる手間をできる限り省き、かつ95.2%というかなり高い水準の回収率を確保することができた（ちなみに昨年度は、A票が95%、B票が84%）。また、回答用紙を1枚にまとめる作業のなかで、これまでの調査で相関が高いことが明らかとなっている項目を省くなど質問項目の精選をすることもできた。もちろん重要な項目はこれまで同様残してあるので、経年比較も可能である。したがって、今年度調査で用いた形式に大きな問題なければ、次年度以降の調査でも同じ形式をもちいることができるだろう。演習・ゼミ形式と講義形式の授業双方に使うことのできる雛型が今回つくられた。





## ■ 2. 授業評価の内容と実施方法

### § 2.1 「学生による授業アンケート」の構造

昨年度の調査で見出された改善点を踏まえ、今年度の授業評価調査票（授業アンケート）は、1枚の質問用紙と回答用紙で実施された。具体的な質問項目は以下のように類別される。

- 第1部（問1から問4） マークシート方式による回答可能な質問および補足的な自由記述。
- 第2部（問5から問6） 学生が授業に向かう態度を理解し、また学生自身に「振り返り」の機会を与えるために適切な問いを設定し、その問いに対して自由記述で答えさせる。
- 第3部（問7） これまでに本アンケートに回答した回数（0回から3回以上）とその経験によってうけた影響に関する自由記述。

### § 2.2 実施した授業科目

これまでの経緯を踏まえ、今年度は演習・ゼミナール形式の授業もともに調査することにした。実施者と実施した科目名は以下の通りである（以下、シラバス掲載順・敬称略）。講義形式の授業数は6、演習・ゼミナール形式の授業数は9となっている。

|       | 実施科目名        | 教員名          |
|-------|--------------|--------------|
| 講義    | 教育研究入門Ⅰ      | 齊藤(智)・杉本・辻本  |
|       | 教育人間学概論Ⅰ     | 矢野           |
|       | 教育心理学概論Ⅰ     | 子安           |
|       | 臨床心理学概論Ⅰ     | 田中(康)        |
|       | 生涯学習概論Ⅰ      | 前平           |
|       | 比較教育学概論Ⅰ     | 杉本           |
| 演習・ゼミ | 教育学専門ゼミⅠ     | 鈴木・マツティク     |
|       | 教育史専門ゼミⅠA    | 辻本           |
|       | 教育方法専門ゼミⅠ    | 田中(耕)・西岡     |
|       | 発達教育専門ゼミⅡ    | 明和           |
|       | 教育心理学コロキウムⅠA | 子安           |
|       | 教育心理学コロキウムⅡ  | 皆藤・楠見・高嶋・キルク |
|       | 教育社会学専門ゼミⅡ   | 岩井           |
|       | 教育政策学専門ゼミⅠA  | 金子           |
|       | 教育政策学専門ゼミⅠB  | 高見           |

### § 2.3 実施した対象者

上記授業に出席した学部生・院生・聴講生・科目等履修生・その他

### § 2.4 実施した日程

実施は授業終了日に近い6月26日から7月9日の期間とした。

### § 2.5 具体的な実施手順

「学生による授業アンケート」実施要項として以下のような教示を担当教員に与え、授業のなかで担当教員から学生に問題用紙、回答用紙、回収用封筒を配布した。学生のアンケートへの関心を高めるために、また学生への調査結果のフィードバックのために、アンケートの実施にあたり、口頭で前回の調査結果が教育学部・教育学研究科のホームページに掲載していることを学生に伝えてもらった。

#### 「学生による授業アンケート」実施要項

- 今回の調査の対象となるのは、この「講義」と「演習・ゼミ」の授業です。全員に記入してもらうことが望ましいのですが、決して、強制はしないで下さい。
- この封筒の中には、問題用紙(両面印刷)、回答用紙(マークシート)が入っています。これらが足りない場合には、事務のカウンターから必要部数をお取り下さい。
- アンケート記入に必要な時間はおよそ30分程度です。回答用紙は必ずその時間内で回収してください。
- 集めた全員分の回答用紙とこの実施要項を、このマチつき封筒に入れ、7月9日(木)(厳守)までに、稲垣のメールボックスまで提出して下さいようお願いします。
- 疑問やお困りのことがありましたら、稲垣(3054)、齊藤(智)(3066)、西岡(3033)、中池(3099)までお問い合わせ下さい。

### § 2.6 回収率

回答用紙の配布数は500枚、回収数は476枚(回収率95.2%)。高い回収率となっている。

### ■3. 「学生による授業アンケート」の結果と分析 — 2008年度との比較 —

#### §3.1 回答者の属性

今回アンケートを実施した授業の数は15（講義6、ゼミ9）である。回答用紙の配布数は500枚で、回収数は476枚（回収率95.2%）であった<sup>1</sup>。授業ごとの回収率を表1に示す。また、今回のアンケートに答えた学生の「所属」「回生」「性別」を昨年度（2008年度）のアンケート結果と並べて図1、図2、図3に示す。

所属については例年同様、教育学部・教育学研究科の学生数が最も多く、全体に占める教育学部・教育学研究科の学生の割合も、昨年が62.8%、今年が63.3%とほぼ変わらず全学部中最大である。全体からみるとわずかな割合ではあるが、本年度は理学部、農学部、工学部の学生数が増えている。回生については、演習・ゼミナールを調査対象に含めたことによって、昨年度に比べ3回生以上の割合が増加した。性別については、2008年度に比べて男性の数が増えていること、無回答の数がかなり減っていることが本年度の特徴としてあげられる。

表1 授業別回収数・回収率（順不同）

| 授業名   | 配布数 | 回収数 | 回収率     |
|-------|-----|-----|---------|
| 授業1   | 17  | 15  | 88.2%   |
| 授業2   | 6   | 6   | 100.0%  |
| 授業3   | 61  | 61  | 100.0%  |
| 授業4   | 13  | 11  | 84.6%   |
| 授業5   | 21  | 21  | 100.0%  |
| 授業6   | 10  | 9   | 90.0%   |
| 授業7   | 71  | 56  | 78.9%   |
| 授業8   | 89  | 89  | 100.0%  |
| 授業9   | 49  | 49  | 100.0%  |
| 授業10  | 15  | 13  | 86.7%   |
| 授業11  | 4   | 4   | 100.0%  |
| 授業12  | 9   | 8   | 88.9%   |
| 授業13  | 67  | 66  | 98.5%   |
| 授業14  | 22  | 22  | 100.0%  |
| 授業15  | 46  | 46  | 100.0%  |
| 計(平均) | 500 | 476 | (95.2%) |

<sup>1</sup> ただし、重要な分析項目である、問1、問3、問4について未回答項目がある10件の回答用紙は分析対象外とした。そのため、分析対象は466件である。

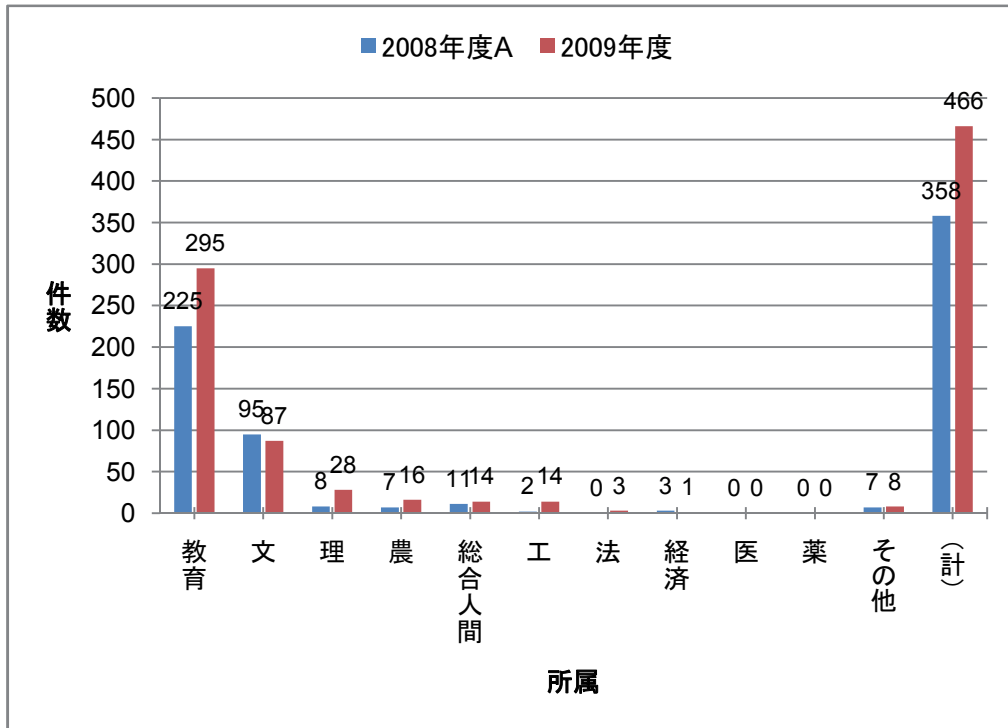


図1 回答者の所属

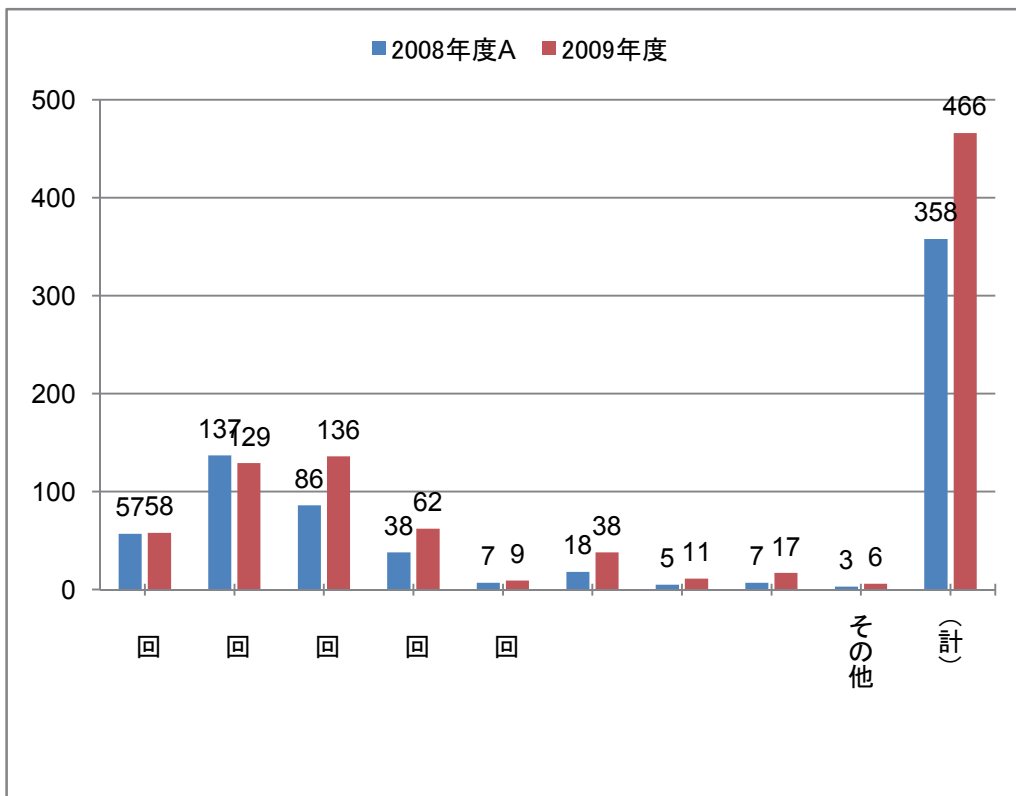


図2 回答者の回生

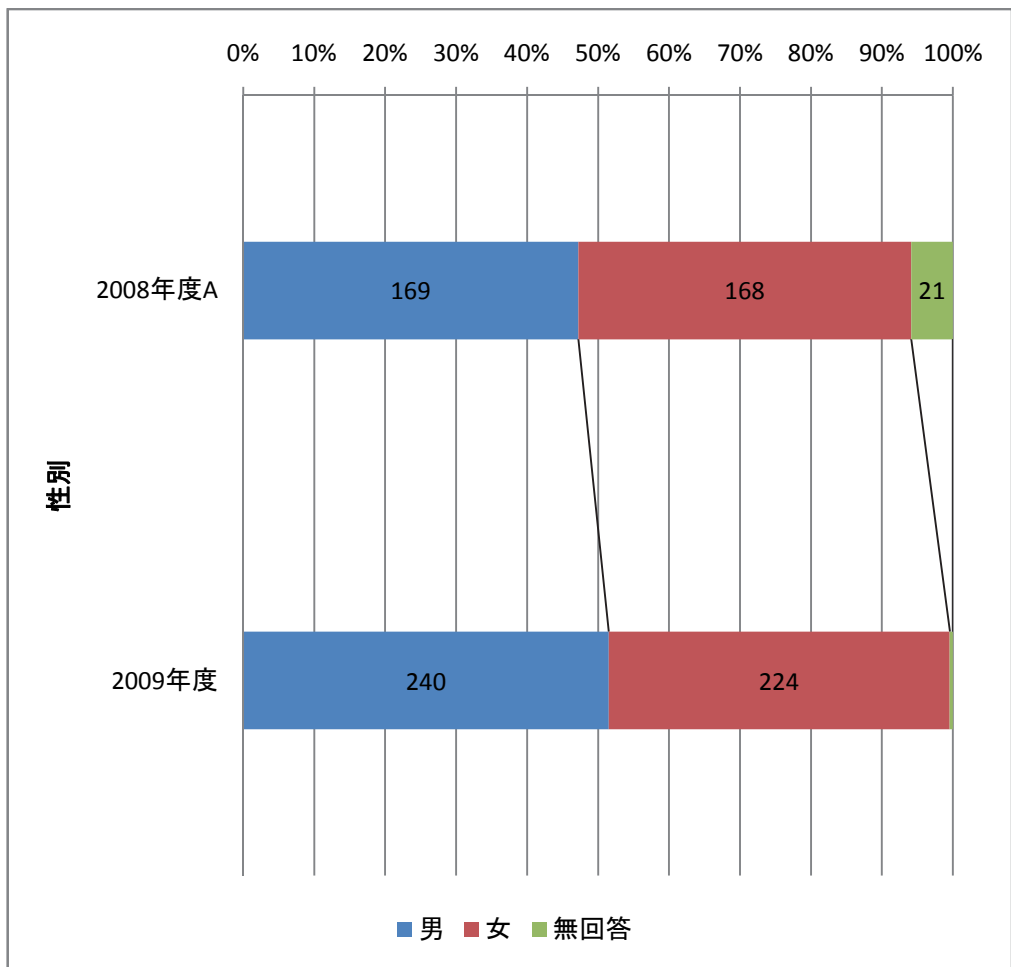


図3 回答者の男女比

### § 3.2 授業に対する評価

#### 問1の分析結果

問1では、「この授業について、満足している／得たものがある／役に立った」という点について、あてはまるか、あてはまらないかについて尋ねた。この結果を表2、図4に示した。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」と回答したものの割合を示すと、「満足している」については82.1%、「得たものがある」については92.0%、「役に立った」については70.6%であった。昨年にも増して、どの項目についても非常に高い肯定的結果が得られているといえるだろう。その要因として、本年度のサンプルに演習・ゼミ形式の授業が含まれていることがあげられる(3.3参照)。

表2 問1-(1) 満足している・得たものがある・役に立った

|                 | 2008年度     |            |            | 2009年度     |            |            |
|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|                 | 満足している     | 得たものがある    | 役に立った      | 満足している     | 得たものがある    | 役に立った      |
| あてはまる           | 139        | 166        | 111        | 213        | 257        | 197        |
| どちらかといえばあてはまる   | 146        | 139        | 99         | 170        | 171        | 132        |
| どちらともいえない       | 49         | 34         | 118        | 55         | 24         | 108        |
| どちらかといえばあてはまらない | 15         | 13         | 21         | 21         | 10         | 23         |
| あてはまらない         | 9          | 6          | 7          | 7          | 4          | 6          |
| <b>(計)</b>      | <b>358</b> | <b>358</b> | <b>356</b> | <b>466</b> | <b>466</b> | <b>466</b> |

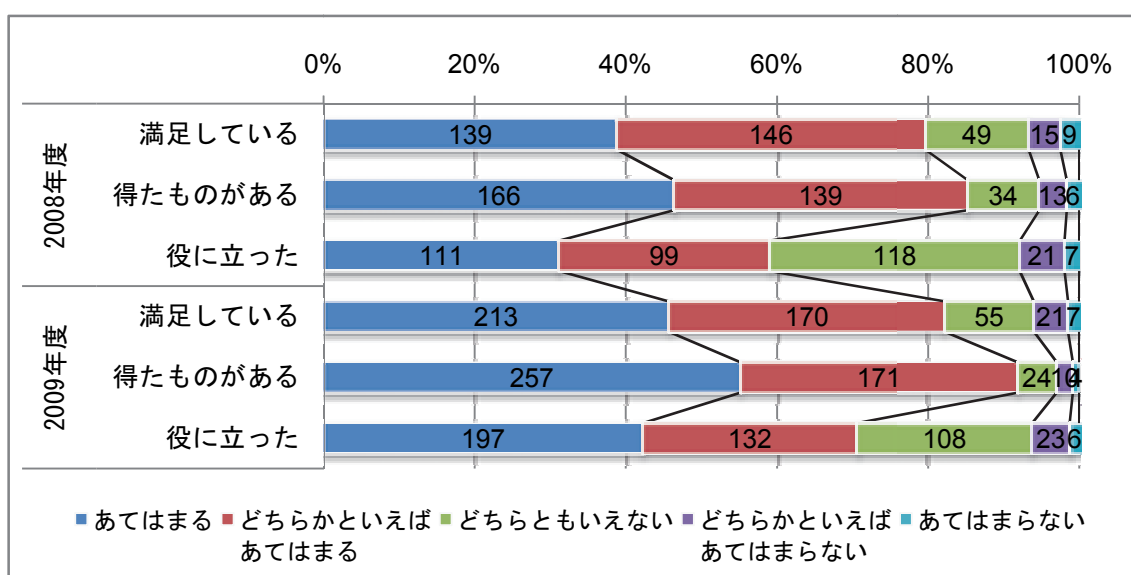


図4 問1-(1) 満足している・得たものがある・役に立った

## 問 2 の分析結果

問 2 は、「この授業についてあてはまるもの」を回答数に制限を加えず選択させたものである。この結果を図 5 に示す。本年度は、昨年度と比べ順位の変動が若干あるものの全体としてはほぼ同じ傾向であり、「おもしろかった」「考えが深まった」「考えさせられた」といった肯定的項目が上位に並んでいる。また、一見否定的にみえる「難しかった」や「負担が多かった」といった項目についても昨年確認したのと同様に、授業の満足度や得たものがあるかどうかといった項目と大きく関連していることが分かる（巻末資料参照）。

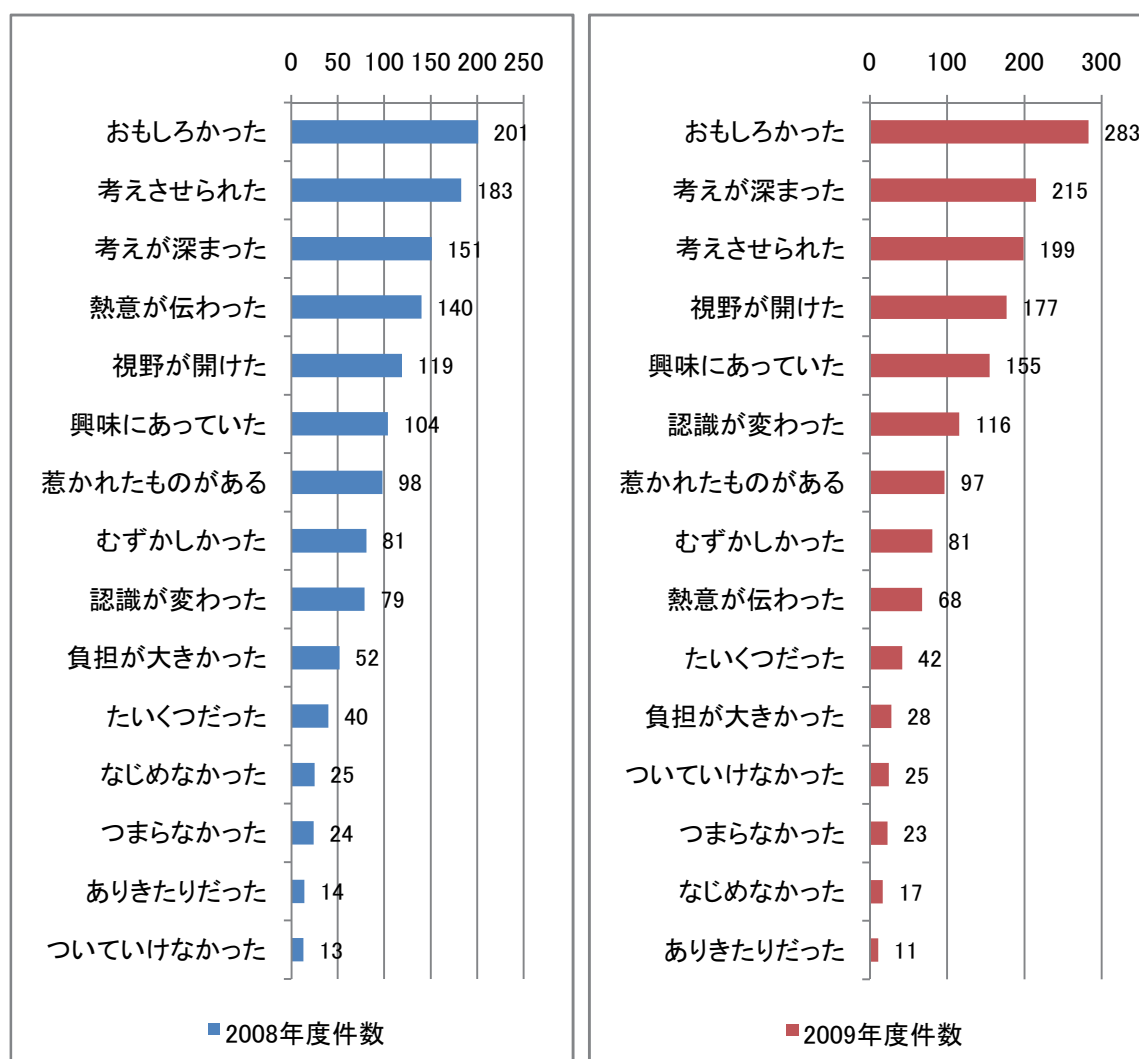


図 5 この授業についてあてはまるもの（回答数無制限）

## 問 3 の分析結果

問 3 は、「この授業について『最も期待すること』、『次に期待すること』」を尋ねたものである。表 3 と図 6 をみると、『最も期待すること』については、「知識や理解を深



められる」を選択した学生が昨年に引き続き最も多い。同項目において昨年度は二番目に多かった「必要な方法論を身につけられる」、三番目に多かった「自分の問題意識を磨ける」が、本年度においてはそれぞれ順位を逆転している。昨年度の報告書では、「方法論に関する意識が高い学生が多い」と特徴づけられたのに対し、今年度は自身の問題意識に関心の高い学生が多いことが目立っている。この一因としては、講義に比べてディスカッションや発表の場が多い演習・ゼミ形式の授業をサンプルに含めた影響があげられるかもしれない。『次に期待すること』をみると、昨年同様「多面的な考察ができる」を期待する学生が最も多かった。

表3 問3「この授業について『最も期待すること』『次に期待すること』」

|                   | 2008年度 |      | 2009年度 |      |
|-------------------|--------|------|--------|------|
|                   | 「最も」   | 「次に」 | 「最も」   | 「次に」 |
| a. 知識や理解を深められる    | 150    | 34   | 222    | 78   |
| b. 必要な方法論を身につけられる | 61     | 37   | 43     | 51   |
| c. 自分の問題意識を磨ける    | 48     | 70   | 84     | 107  |
| d. 最新動向に触れられる     | 34     | 57   | 28     | 71   |
| e. 多面的な考察ができる     | 41     | 102  | 63     | 116  |
| f. 自分のテーマの検討ができる  | 20     | 46   | 20     | 41   |
| g. その他            | 4      | 10   | 6      | 2    |
| 総計                | 358    | 356  | 466    | 466  |

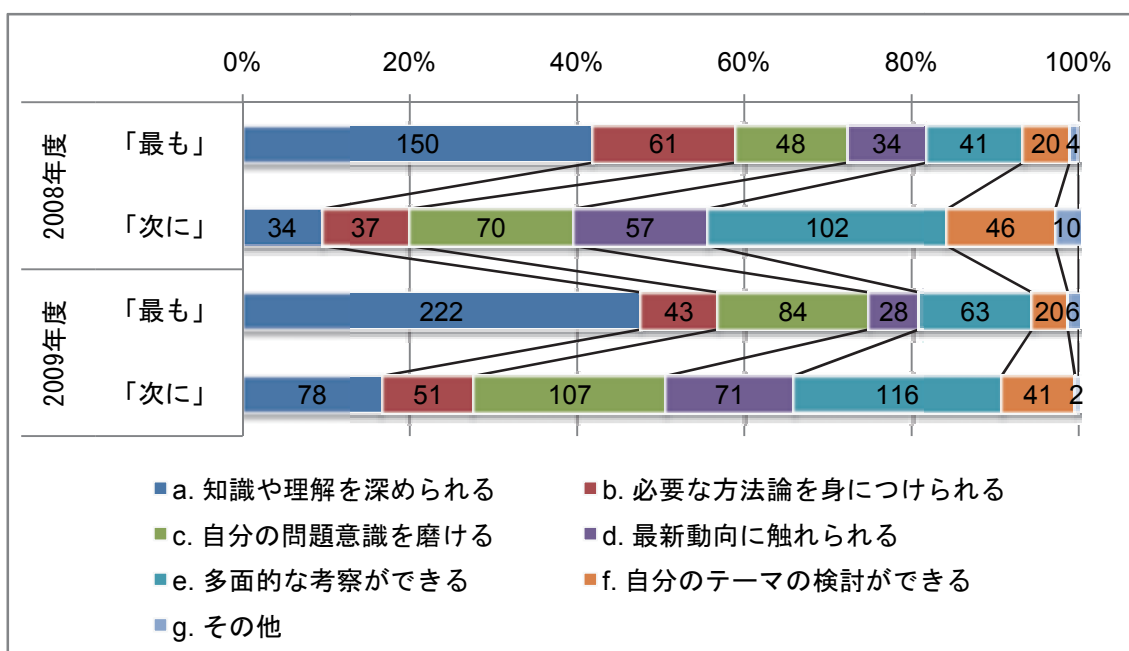


図6 問3「この授業について『最も期待すること』『次に期待すること』」

#### 問4の分析結果

問4は「問3で選んだことがらの達成度」を尋ねたものである。表4と図7に本年度と昨年度の結果を示す。80%以上の学生が、昨年度よりもさらに肯定的に回答していることがわかる（「達成できている」および「まあまあ達成できている」）。この肯定的傾向については、全体で見れば昨年度と大差はないが、「達成できている」と答えた者の割合が昨年度に比して若干増加していることから、肯定的傾向がさらに強まっていると見ることができる。

表4 問4「問3の達成度」

| 問3の達成度       | 2008年度     | 2009年度     |
|--------------|------------|------------|
| 達成できている      | 45         | 73         |
| まあまあ達成できている  | 238        | 309        |
| あまり達成できていない  | 67         | 80         |
| まったく達成できていない | 6          | 4          |
| <b>総計</b>    | <b>356</b> | <b>466</b> |

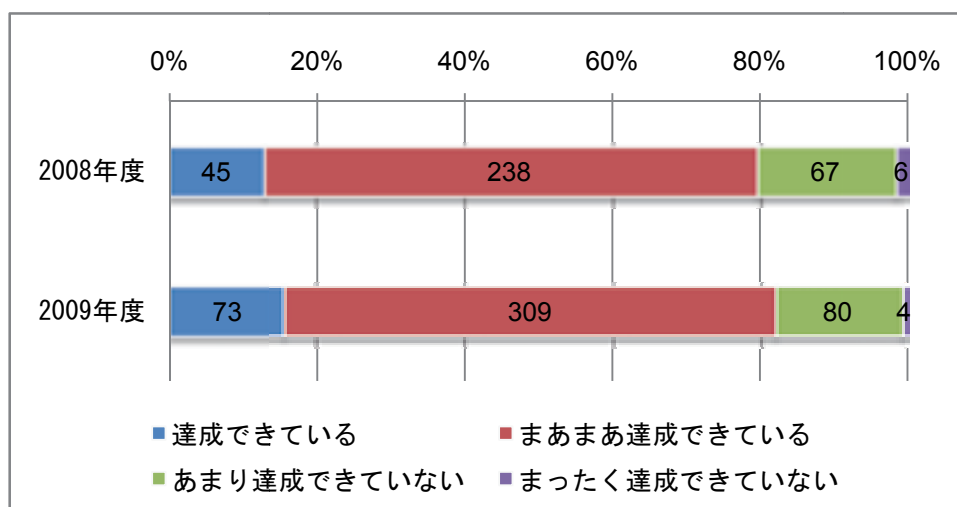


図7 問4「問3の達成度」

あわせて、それぞれの選択肢について、そのような判断をした理由を尋ねた自由記述部分を以下に抜粋する。これらの例から確認できるのは次の2点である。第一に、「まあまあ達成できている」を選択している学生のうち、「受けた授業よりもさらに、新しい／深い／広い内容でもよかった」という風にさらなる学びを欲しているにもかかわらず、授業がその要求水準に達しなかったことをうかがわせる記述が散見されたこと。第二に、「あまり達成できなかった」と答えた学生のうち、その理由を「自分の知識のなさ」や「理解の不足」に帰属させる記述が多数みられたこと。前者においては、学生は自分と授業との関

連について、授業が自らの要求水準に満たない場合にはその原因を授業に帰属させ、さらなる学びを求め、逆に後者においては、授業が自らの要求水準を超える場合にはその原因を自分に帰属させ、未達成感を表明する傾向にあるといえる。なお、自由記述の後ろには講義形式の授業に対するものに▽を、ゼミ形式の授業に対するものに▲をそれぞれ記している。

○「達成できている」と回答した学生の自由記述

「個別具体的なアドバイスを頂くことができ、研究の方向も示して頂ける」▲

「1人1人の研究テーマが違っていて、毎回様々な課題に触れられる」▲

「講義の内容や参考文献等から概論的な知識を得ることができたと思われるから」▽

「卒論を書いていくとき（構想をつくる際）の思考の材料になったため。」▽

「今まで考えたこともなかった話をきくことで、多くの問題意識を磨けたと思うから。」▽

○「まあまあ達成できている」と回答した学生の自由記述

「発表の際に自分の少ない力をふりしぼって準備したから。・出来る限り質問したから。」▲

「自分一人で考えていては、考えが偏るが、意見を発し、他者からの指摘を受けることで、視野を広げることができたから。」▲

「授業内で複数の研究者の考え方を紹介してくれるため、様々な角度から見た、意見を聞くことができるから。」▽

「教授の言うことに共感出来る部分が多かったが、今までに聞いたことがある話も多かったため。新しい思考は少なかったが（ママ）残念である。」▽

「最新動向には触れられていないが、全般的な理解は深まったと感じるから。」▽

○「あまり達成できていない」と回答した学生の自由記述

「予習が足りず、知識不足であった。」▲

「私の知識が足りてないので、皆さんの発表を、よく理解できないことも多いです。」▲

「受身の授業なので、自分自身の集中力が足りなかったり、自主的な勉強も不足してたから。」▽

「内容は面白い部分も多いが、私的な問題意識にまで踏み込んではいないから、当然といえば当然ですが。」▽

「領域の幅広さに追いつけなかったから」▽

○「まったく達成できていない」と回答した学生の自由記述

「興味もてなかった」▽

「分野・取り扱うことが狭すぎる！！」▽

※なお、ゼミに対する「全く達成できていない」と回答したものはいなかった。

## 問5の分析結果

問5では、授業にたいして「こころがけていること」を3つまで答えさせたものである。図8の通り、昨年度と同じく本年度も「欠かさず出席」が最も多い回答となった。以下、「問題意識と照らし合わせて授業理解」「能動的に授業に臨む」「集中して授業を聞く」「授業以外に自主的に勉強」「時間内に自分の疑問点を解決」「積極的に発言・質問」の順になっており、この順序は一昨年度、昨年度、本年度とつづけて一貫している。

もう少し細かく見てみると、授業に欠かさず出席したり、集中して授業を聞くといった授業参加に積極的な一方で、「自主的に勉強」を選んだ者が少ない。この点に課題が見受けられるかもしれない。また、今回の調査では演習・ゼミ形式の授業が含まれている割には、「積極的に発言・質問」を心がけている者の数も少ない。これらからは、学生は全体として、授業のみで学習する気質が見受けられるだろう。

なお、調査実施時期が6月26日から7月9日という前期末だったため、途中脱落者がそもそも回答者に入っていないことによって「欠かさず出席」と回答した者が多い可能性もある。

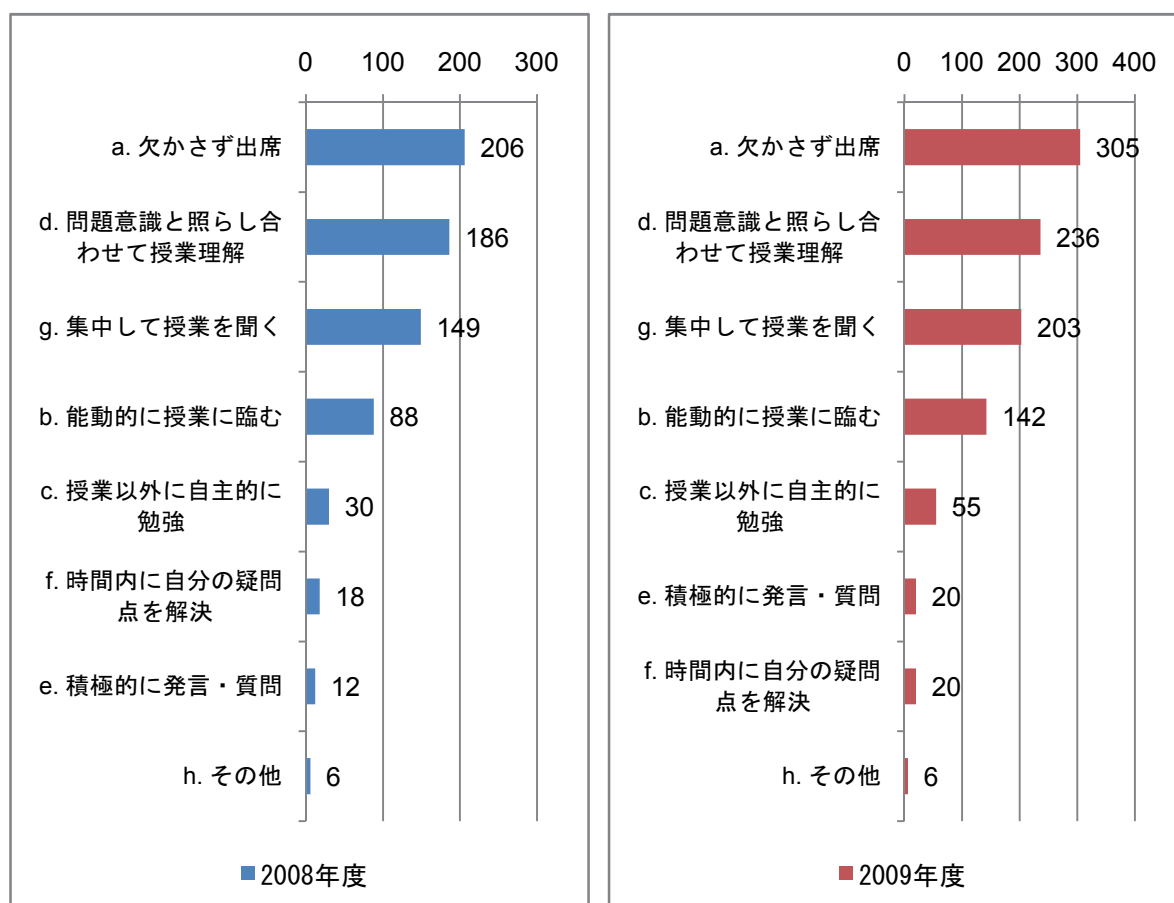


図8 問5 こころがけていること（3つまで選択）

### § 3.3 講義科目とゼミ科目の比較

今年度の調査対象は、講義形式とゼミ・演習形式とを含んでいることから、両者の比較が可能である。表5は、ゼミ・演習および講義ごとの回答者数である。

表5 授業形態別回答者数

|       | 件数  |
|-------|-----|
| ゼミ・演習 | 106 |
| 講義    | 360 |
| 計     | 466 |

#### 問1×授業形態の分析結果

図9は、「問1-(1) 満足している・得たものがある・役に立った」の回答を授業形態で比較したものである。「満足度」「得たものがある」「役に立った」のいずれの項目においても、肯定的な回答は高いが、ゼミ・演習のほうがさらに肯定的な回答をしている。これについては、ゼミ・演習については自分の問題意識に合致しているものに出る一方、講義についてはこの限りではないという解釈が可能だろう。全体としてみると、学生は自分に適格的なゼミを見つけられる準備があることが分かる。

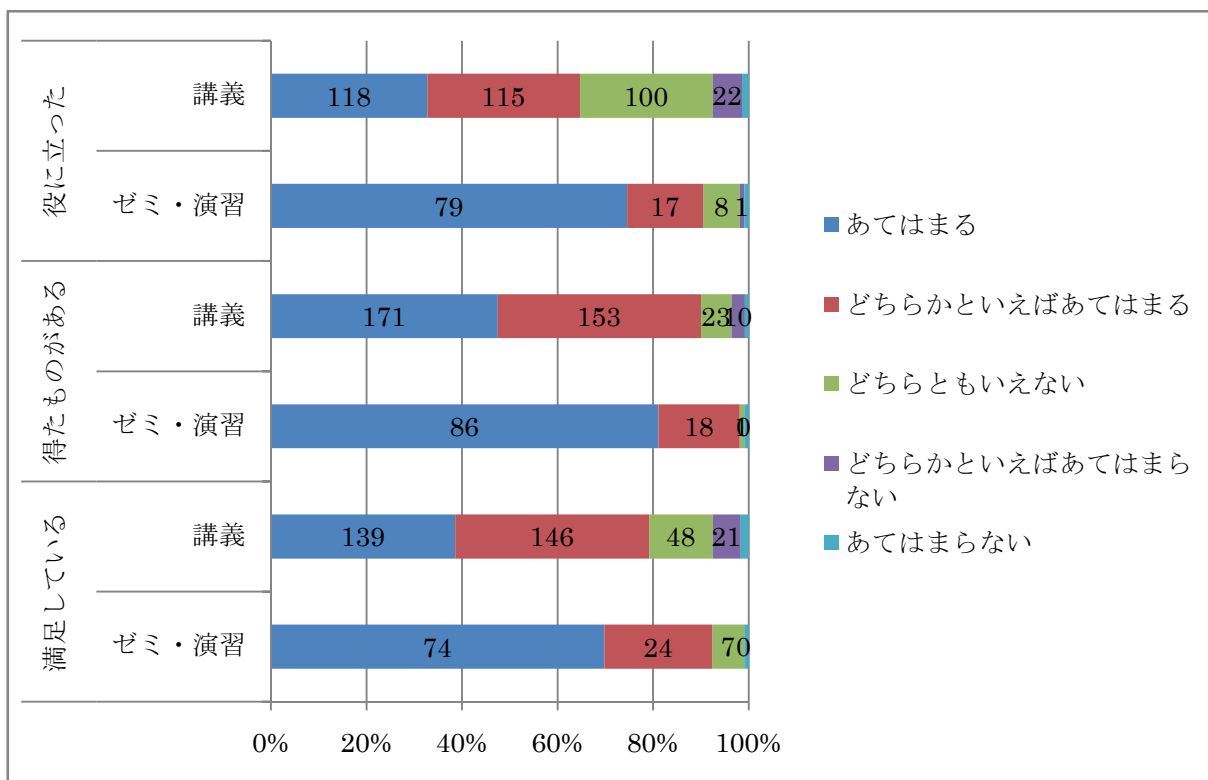


図9 「問1-(1) 満足している・得たものがある・役に立った×授業形態」

## 問2×授業形態の分析結果

図10は、「問2 この授業についてあてはまるもの」を回答数に制限を加えず選択させたものを、授業形態別に示したグラフである。講義に対しては、「おもしろかった」と回答するものが他項目に比べて顕著に多いが、ゼミに対しては「考えが深まった」「考えさせられた」に次いで「おもしろかった」は第三位になっている。これに加えて「むずかしかった」の項目がゼミのほうが講義よりも高いことからすると、講義よりもゼミのほうが、むずかしいと感じるなかで自分の考えを深めたり、考えさせられたりしている学生の姿が浮かびあがる。「ある程度の困難さは、それを超えて理解へ向かう動機づけ、ならびに理解できた時の達成感などと結びつ」いているという知見を、講義科目を対象とした前年度に得ているが、その傾向はゼミについてはより強く見られることが分かる。

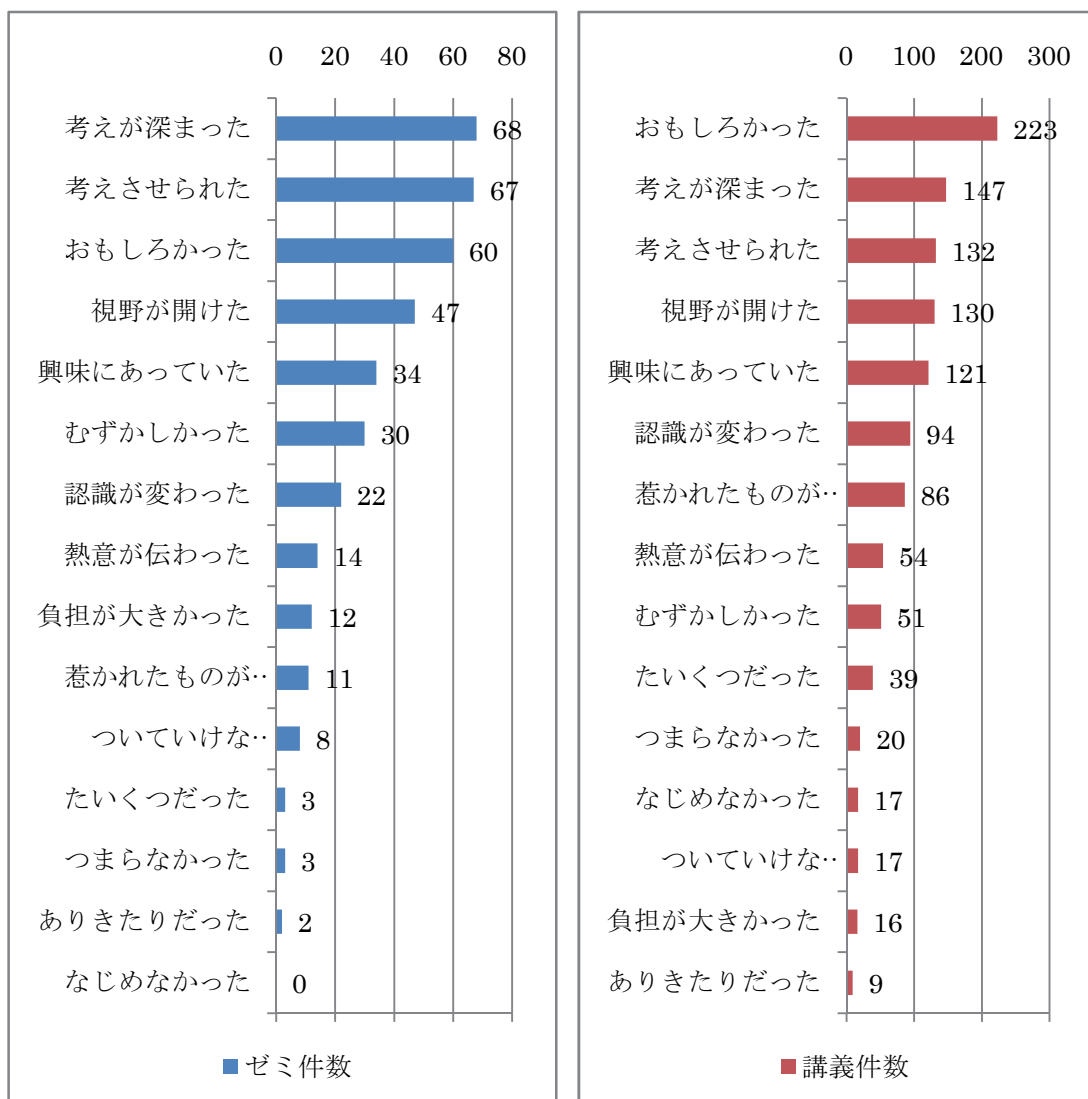


図10 「問2 この授業についてあてはまるもの×授業形態（回答数無制限）」

### 問3×授業形態の分析結果

表6と図11は、この授業について『最も期待すること』、『次に期待すること』を授業形態別に示した図表である。『最も期待すること』に着目すると、ゼミと講義とでは傾向が大きく異なる。講義に対して最ももとめられているのは「知識・理解」が60%近くであり、ゼミ・演習に最ももとめられているのは「最新動向」「方法論」「問題意識」の三項目がほぼ同じ割合である（三項目合計70%弱）。

「次に期待すること」については、ゼミ・演習も講義もともに均等に分布しており授業形態の違いは「最も期待すること」ほど大きくない。

表6 「問3 この授業について『もっとも期待すること』『次に期待すること』×授業形態」

|                | 最も    |     | 次に    |    |
|----------------|-------|-----|-------|----|
|                | ゼミ・演習 | 講義  | ゼミ・演習 | 講義 |
| 知識や理解を深められる    | 12    | 210 | 12    | 66 |
| 必要な方法論を身につけられる | 25    | 18  | 13    | 38 |
| 自分の問題意識を磨ける    | 2     | 56  | 26    | 81 |
| 最新動向にふれられる     | 28    | 16  | 12    | 59 |
| 多面的な考察ができる     | 12    | 38  | 32    | 84 |
| 自分の問題意識を磨ける    | 25    | 16  | 11    | 30 |
| 自分のテーマの検討ができる  | 4     | 6   | 0     | 2  |

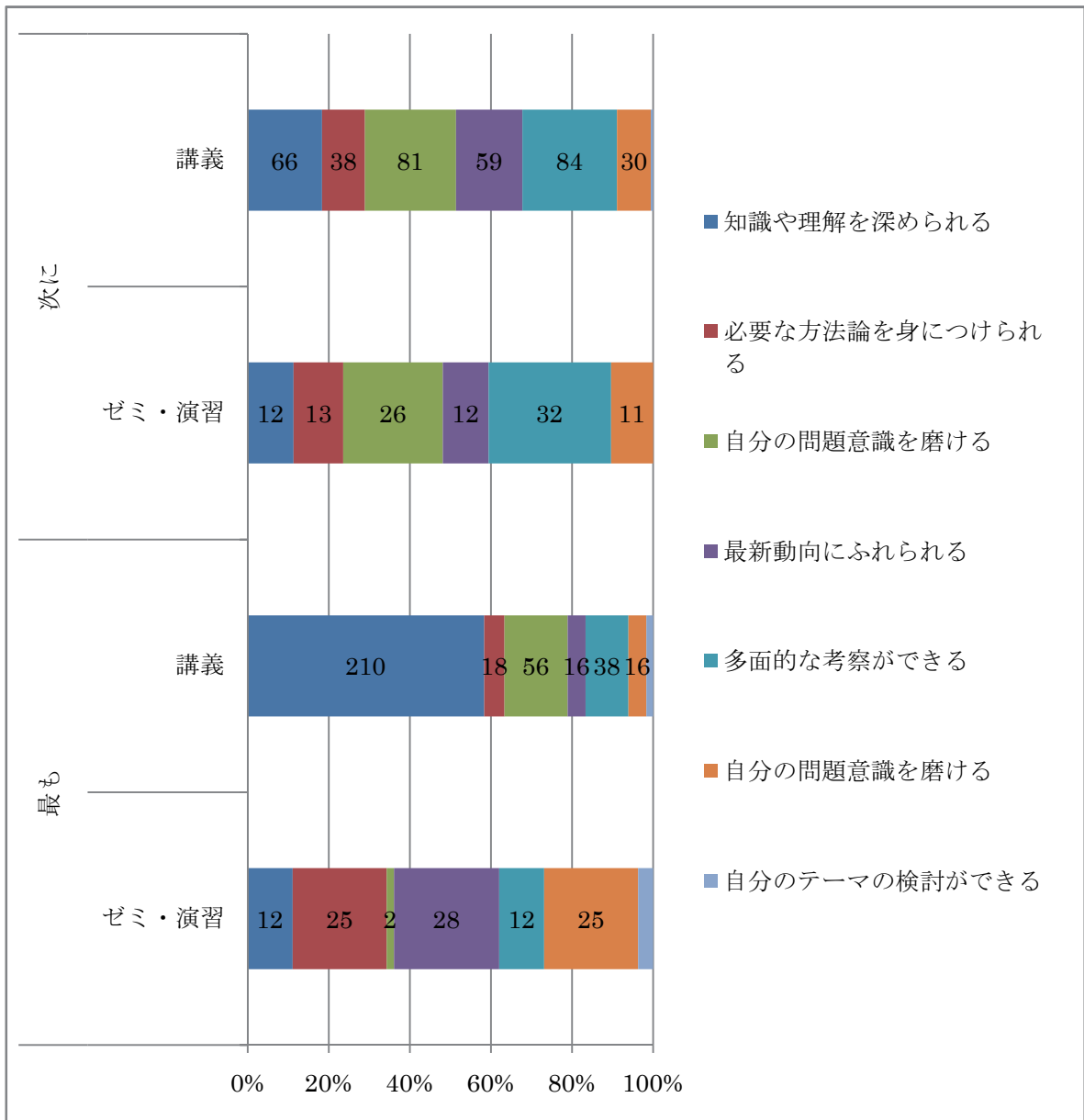


図 11 「問 3 この授業について『もっとも期待すること』『次に期待すること』×授業形態」

#### 問 4 × 授業形態の分析結果

次にあげるのは、問 3 の期待することに対する達成度を尋ねた質問の結果を授業形態ごとに示した図表である。講義もゼミ・演習も「達成できている」「まあまあ達成できている」の合計が 80%となっており、いずれも高い達成度となっている。あえていえば、ゼミの方が若干高い達成度を示している。



表6 「問4-(1) 問3の達成度×授業形態」

|              | ゼミ・演習 | 講義  |
|--------------|-------|-----|
| 達成できている      | 24    | 49  |
| まあまあ達成できている  | 69    | 240 |
| あまり達成できていない  | 12    | 68  |
| まったく達成できていない | 1     | 3   |

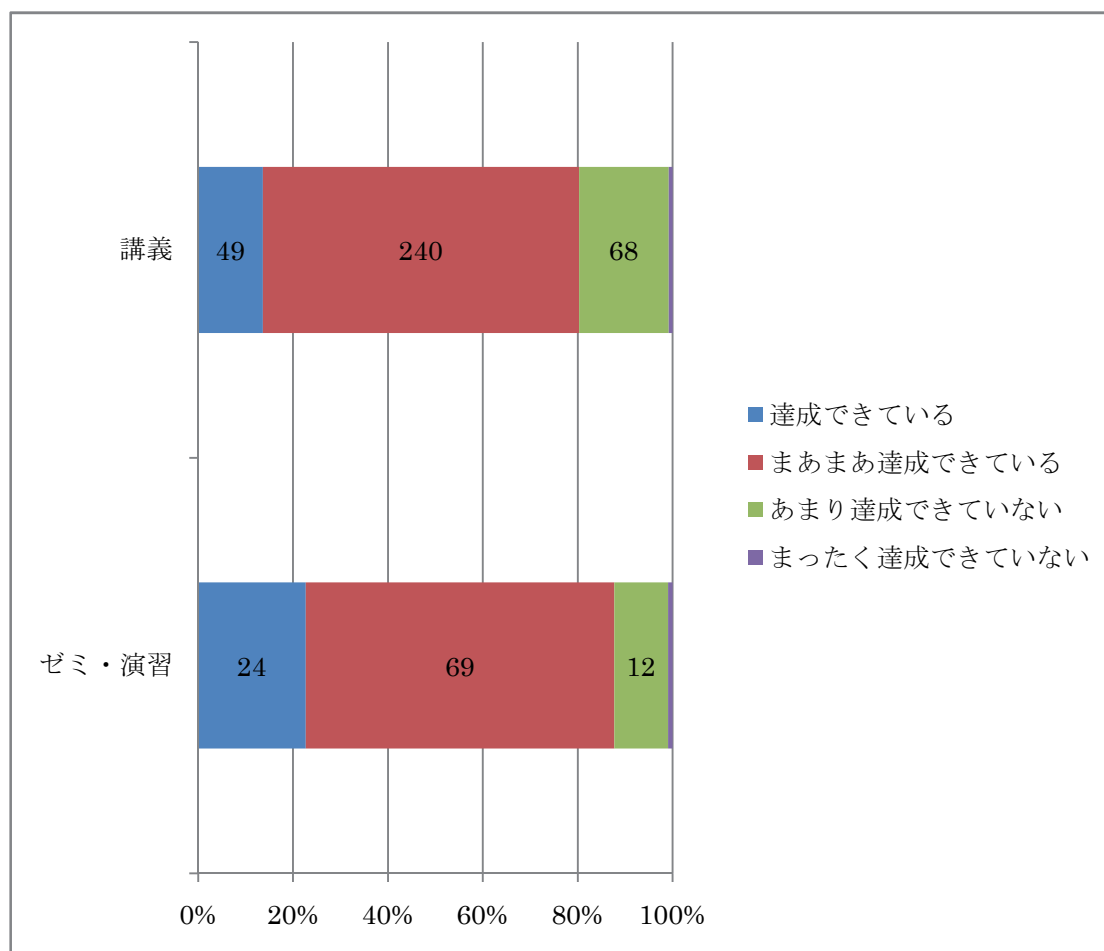


図12 「問4-(1) 問3の達成度×授業形態」

### 問5×授業形態の分析結果

表7と図13は、「問5 ころがけていること（3つまで選択）」を授業形態別にあらわしたものである。

表7 「問5 ころがけていること（3つまで選択）×授業形態」

|                  | ゼミ・演習 | 講義  |
|------------------|-------|-----|
| 欠かさず出席           | 62    | 243 |
| 能動的に授業に臨む        | 48    | 94  |
| 授業以外に自主的に勉強      | 22    | 33  |
| 問題意識と照らし合わせて授業理解 | 65    | 171 |
| 積極的に発言・質問        | 16    | 4   |
| 時間内に自分の疑問点を解決    | 12    | 8   |
| 集中して授業を聞く        | 42    | 161 |

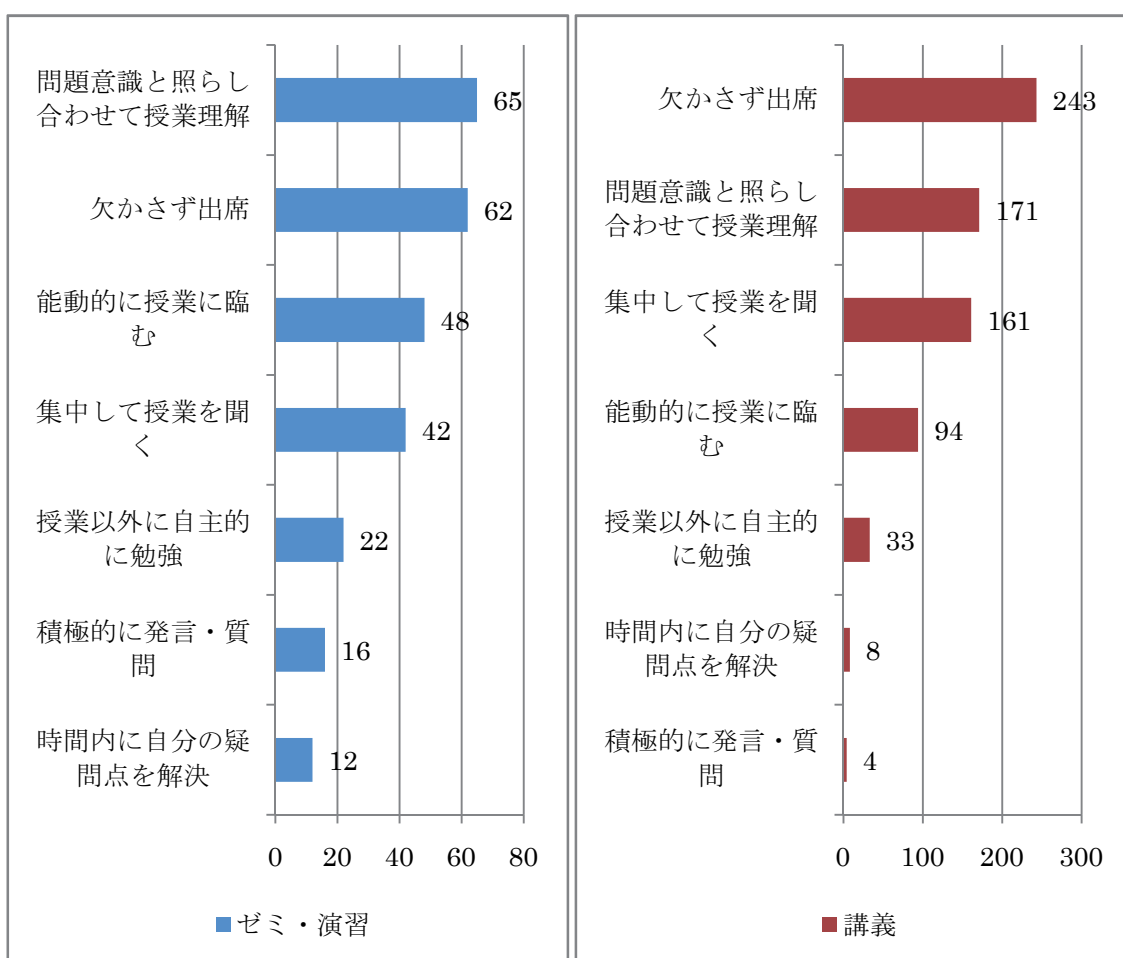


図13 「問5 ころがけていること（3つまで選択）×授業形態」

講義についてもゼミ・演習についても、問 4 においてその期待の達成度は高かった。しかし、当該授業にたいして「問 5 ころがけていること」をみると、いくつかの課題が浮かび上がってくる。

課題の一点目としては、ゼミ・演習について、「積極的に発言・質問」を心がけている学生がかなり少ないことである。ゼミ・演習においては、研究発表と並んで討論やディスカッションも重要な位置づけになっているはずである。しかしながら、「積極的に発言・質問」を心がけている学生が少ないのはどのような背景があるだろうか。今回、この点について分析する中であがったのは、クラスサイズが大規模化しているのではないかということである。本来、討論やディスカッションを重視するゼミ・演習といえど、授業によっては数十人規模のものも含まれているため、おのずと一人当たりの発言機会が限られてしまう可能性があるだろう。

課題の二点目としては、「授業以外に自主的に勉強する」ことを心がけている学生が、ゼミ・演習においても講義においてもそれほど多くないことである。授業形態を分けずに問 5 を分析した § 3.2 でも指摘したことであるが、その内訳を授業形態ごとに見てもいずれも同じく順位は低い。この点について話合うなかで、手続き上の問題としてあがったのは、「授業以外に自主的に勉強」という言葉を回答者がどのようにとらえるかが若干曖昧ではないかということである。質問者としては、教養書の読書などに限らず、例えばゼミ発表の準備に時間をかける場合も「授業以外に自主的に勉強」に含めるという意図があったのだが、回答者によってイメージする自主的な勉強は異なっているのかもしれない。この点については今後、質問文をより分かりやすいものに変更する必要があるだろう。

### § 3.4 アンケートの効果について

本調査では、「学生が主体的に取り組む授業評価」を探求することを目指している。この観点から検討してみたいのは以下のことである。すなわち、これまでに授業評価アンケートに回答したか否かによって、あるいは、これまで回答したことのある学生の中でもその回数によって、態度に何らかの違いがみられるのではないかという疑問である。そこでまず「そのアンケートを受けたことで自分自身に変化したところがありますか？」という質問についての自由記述から、この質問文に対する回答を「ポジティブな変化」「ネガティブな変化」「変化なし」「その他」「無回答」の 5 つのカテゴリーに分類した。この 5 カテゴリーとこれまでの授業評価アンケートの回答回数とをかけあわせた結果が表 8 と図 14 である。

表 8 回答回数×反応

| 回答回数 | ポジティブな変化 | ネガティブな変化 | 変化なし | その他 | 無回答 |
|------|----------|----------|------|-----|-----|
| 0回   | 1        | 0        | 2    | 0   | 319 |
| 1回   | 3        | 0        | 31   | 3   | 20  |
| 2回   | 3        | 0        | 10   | 1   | 7   |
| 3回以上 | 13       | 1        | 43   | 2   | 14  |

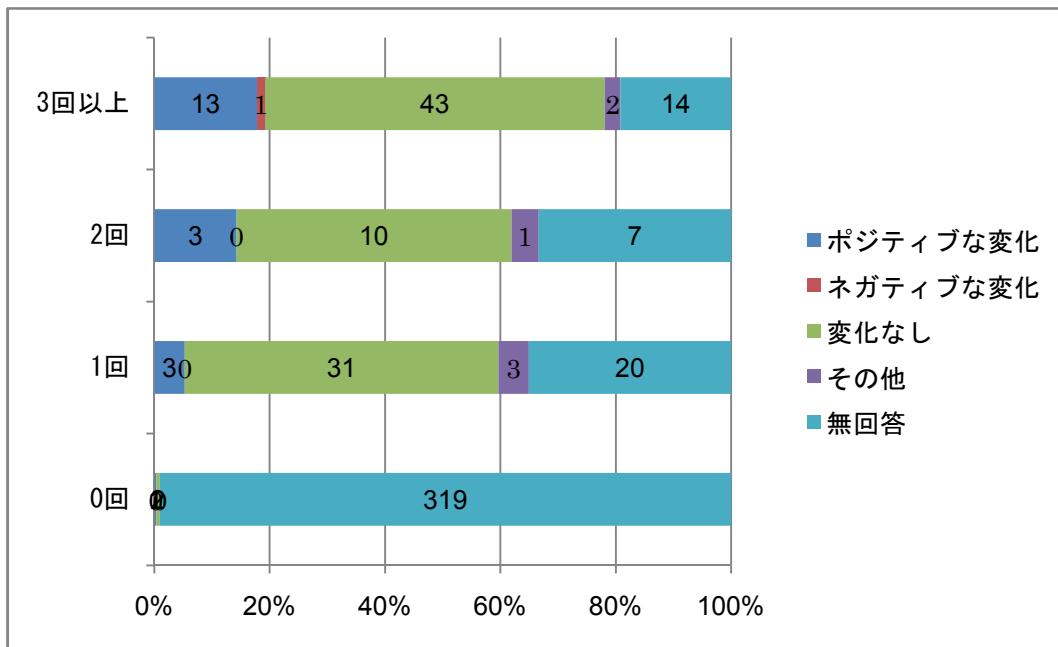


図 14 回答回数×反応

今回はじめてこの授業評価アンケートを受けた者のうち最も多いのは「無回答」であり、今までに授業評価アンケートを受けたことのある者についてみると、その回数にかかわらず最も多いのは「変化なし」である。

ただしその一方で、回答回数を追うごとにポジティブな変化をしている者の割合が増加していることは注目に値するだろう。自由記述より抜粋すれば、次のようになる。

○ 「3回以上・ポジティブな変化」の学生の自由記述

「アンケートを通じて授業の内容を見直すようになった」

「自分の授業への取り組みを振り返るようになった。同時にどんなことを学んだか振り返るようになった」

「積極的に授業に出席するようになりました。」

- 「2回・ポジティブな変化」の学生の自由記述  
「授業を長いスパンで振り返るようになった。」  
「授業そのものに対することを考えるようになったと思います。」
- 「1回・ポジティブな変化」の学生の自由記述  
「問題意識が明確になってきた」  
「考えが深まりました」
- 「0回・ポジティブな変化」の学生の自由記述  
「研究の焦点化がはかれる。」
- 「3回以上・ネガティブな変化」の学生の自由記述  
「なし。面倒。」

以上のように、ポジティブな反応を返す学生は、確かに絶対数としては昨年度同様多いとはいえないものの、しかし、回数を追うごとにポジティブな反応を返す学生の割合は確かに増加すること、その反応は授業内容についてのふりかえりを促されたりや意識の高まりを示すものであったりすることを考慮するなら、この授業評価アンケートの目的は達せられつつあるといえるだろう。一定数の学生は、本アンケートの趣旨を理解しているものと思われる。

また本節の最後に、同項目の「その他」の категорияに分類された自由記述欄から得られる示唆についても言及しておきたい。

- 「3回以上・その他」の自由記述  
「アンケートを書くことで授業全体を通して反省や振り返りはできるが特に次からの授業への臨み方が変わったりはしていない」  
「自分の授業への態度がリファレンスできたものの、次につながったというような事はなかった気がする。」

これらは、授業評価アンケートの効果がある程度認めているものであるが、同時にその影響が限定的であることについて一定の留保もつけている。授業評価アンケートに回答することが、一定の反省性を養う半面、効果がその後なんらかの学習・研究行動にまではつながっていないことを表明する事例である。今後の授業評価アンケートの方向の一つとして、意識面においてふりかえりを促すにとどまらず、さらなる具体的な学習・研究行動にまで

つなげていくことが望まれる。

## ■ 4. 「学生による授業アンケート」の結果を受けて

### § 4.1 「学生による授業アンケート」の課題と改善の方向

「学生による授業アンケート」は今回で 5 回目となり、これまで同様対象授業の担当教員、受講生の両方とも調査の趣旨を理解し全面的に協力していただいたおかげで、スムーズに実施することが出来た。

今回の調査では、手続きについては、§ 1.4 で述べた通り回答用紙を 1 枚にまとめたことでその効果が大きく現れた。すなわち、前回の回収率にもまして高い回収率を得られたこと、配布から回収、集計に至るまでの負担をできる限り省けたこと、これまでの調査と比較可能な質問項目を精選できたことである。全体を通して得られた知見としては、従来と同じく今回も全体的に満足度が高いことが確認された。特に演習・ゼミにおいては、その傾向が顕著であることが新たに分かった。また、§ 1.1 で確認した通り、本アンケートは「評価の哲学」を一貫して掲げてきている。累計で 5 回目となった本アンケートは、ここにきて、これまで回答したことのある学生が本アンケートを通じてどのように自分の学習・研究態度をとらえ返しているのかについて問うことが可能となった。その結果、絶対数としては多くないものの、一定数の学生がアンケートに回答することで自らの態度を反省的に見直し、かつ回を重ねるごとにポジティブな反応を返すようにもなっていたことが分かった。このことは大きな収穫である。

しかしながら、いくつかの課題も見出された。まずは、質問文の改善についてである。問 0 の文系入試か理系入試かを問う質問項目については、他学部の学生が回答に迷うとの声が聞かれた。また、問 5 の「授業以外に自主的に勉強する」という質問文については、質問者と回答者との意図にズレがある可能性もある。ただし、この点については次に提案する方向を探ることで、学生の学びに対する態度・行動に関してさらに深い調査へと深化させることが出来ると考える。すなわち、授業のみにとどまらず、授業以外の学び（仲間集団での自主勉強会、院生との交流、TAやRAの経験など）、さらには図書館の利用回数やオフィスアワーの活用頻度などといった具体的なエビデンスに基づく学生の意識・行動を探ることによって、大学における教育過程全体にまで踏み込んだ調査へと発展させてゆく方向である。

また、本学部・研究科は、暫定評価において留年率の高さが指摘されている。実数としてみれば必ずしも多いわけではないが、授業内に実施するアンケート調査だけではそのような学生の実態は盲点となる。こうした調査からとらえきれない学生のフォローアップも考えるならば、今後は留年をしている学生にインタビューを実施し、その実態を明らかにしていくことも課題だろう。

今後は、以上あげた課題点を検討し、さらにより包括的な位相から、学問そのものへの

知的好奇心をはたして学生は喚起されているのかどうかに踏み込んだ調査を実現することが重要であろう。

#### § 4.2 評価結果のまとめと公表

本報告書は、本学部・研究科の授業全般の特徴や傾向をとらえることを念頭において作成している。個別の授業についての評価結果については、希望する授業担当者にフィードバックする予定である。また、学生・院生からの授業担当者への希望に関する項目についての記述は、すべての授業担当者にそれぞれフィードバックする。報告書は、他大学の教育学部あるいはそれに関係の深い学部、および京都大学の他部局・学部・研究科の自己評価・自己点検に関わる教員に配布する。また学生の希望者にも報告書を配布する。本報告書の概要は、本研究科のホームページにも掲載して公表する。

#### § 4.3 報告書の利用法と評価

報告書の作成のあとに、この報告書をもとにしてFDのための会を開き、授業の改善に向けて本研究科メンバーの意識を高める。授業評価アンケートだけでは教育課程全体の評価が行えないという点を踏まえ、FDのための会では、新たな枠組みでの評価の方法についても、意見を求める予定である。また今回アンケート調査を行った各授業の担当者には、自らの授業への学生の評価のデータを渡すことによって、授業の改善に役立ててもらおう。また場合によっては、本報告書を研究の題材として取り上げ、学生・院生ともに今回のアンケートの問題点や改善点について議論することも予定されている。

# 資料



# 2009 年度学生による授業アンケート集計

## —文系・理系比較版—

教育学部の1回生および2回生は、文系・理系入試を経て入学している。入学定員は、文系入試50人に対し理系入試10人となっているため、いまだ理系入試を経た学生の人数は少ないが、試みに文系・理系入試を経た学生の比較を行ってみた。その結果を報告する。

### 概要

- ・集計対象者は192件（文系入試164人、理系入試28人）である。
- ・問0 「回生」「性別」
- ・問1 「満足している」「得たものがある」「役に立った」
- ・問2 「この授業についてあてはまるもの（三つまで）」
- ・問4 「達成度」
- ・問3 「最も」「次に」
- ・問5 「こころがけていること（三つまで）」

---

### 問0 回生と性別

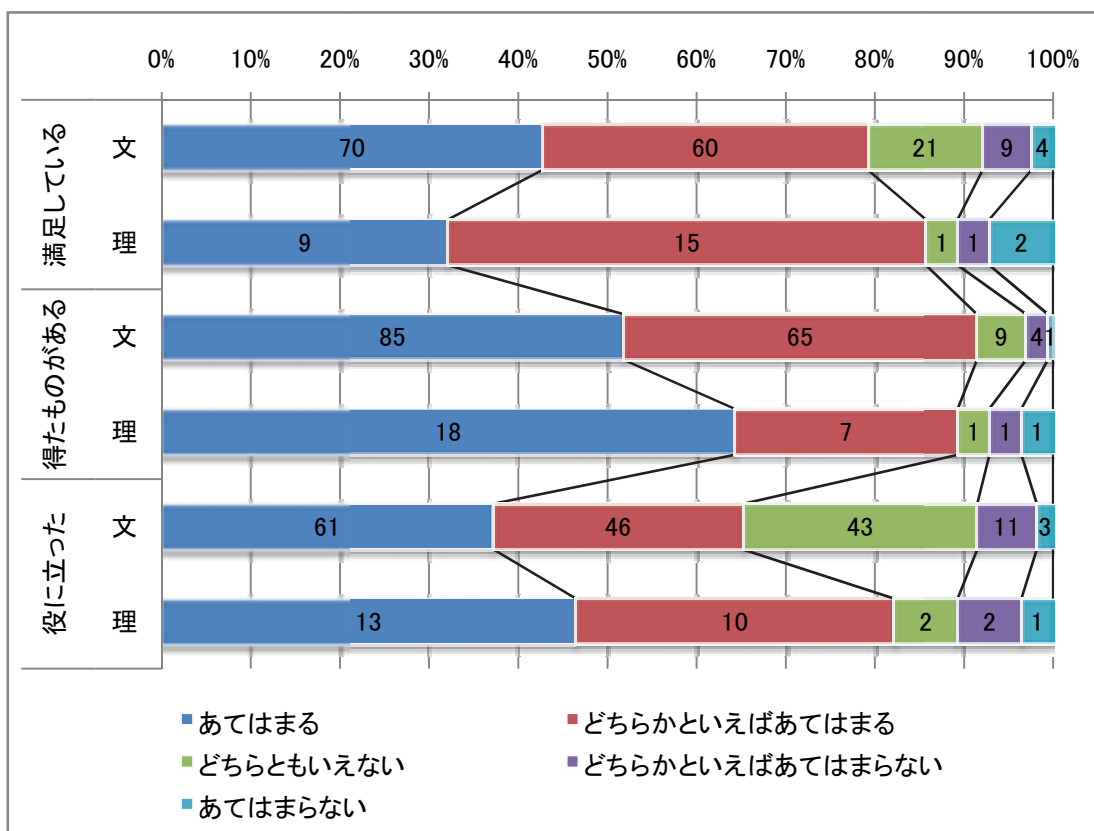
|          | 1回生       | 2回生       | 3回生       | 計          |
|----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 文系入試     | 48        | 46        | 70        | 164        |
| 理系入試     | 10        | 7         | 11        | 28         |
| <b>計</b> | <b>58</b> | <b>53</b> | <b>81</b> | <b>192</b> |

---

|          | 女         | 男         | 計          |
|----------|-----------|-----------|------------|
| 文系入試     | 81        | 83        | 164        |
| 理系入試     | 12        | 16        | 28         |
| <b>計</b> | <b>93</b> | <b>99</b> | <b>192</b> |

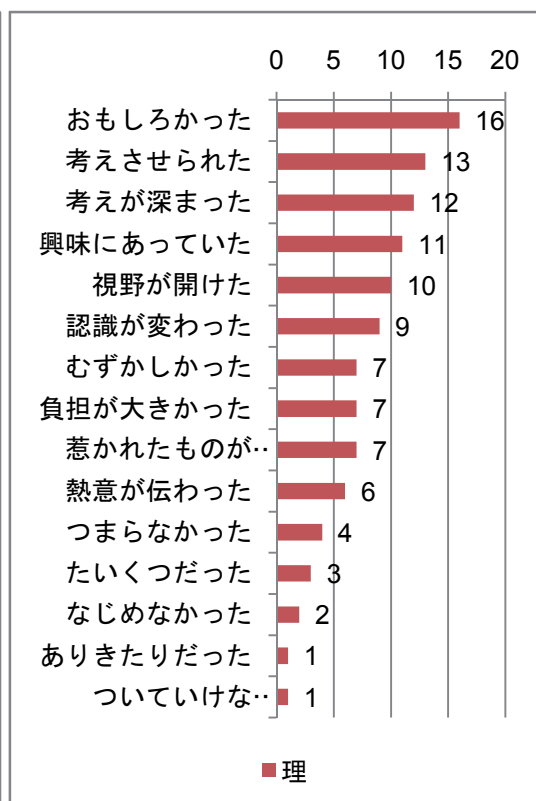
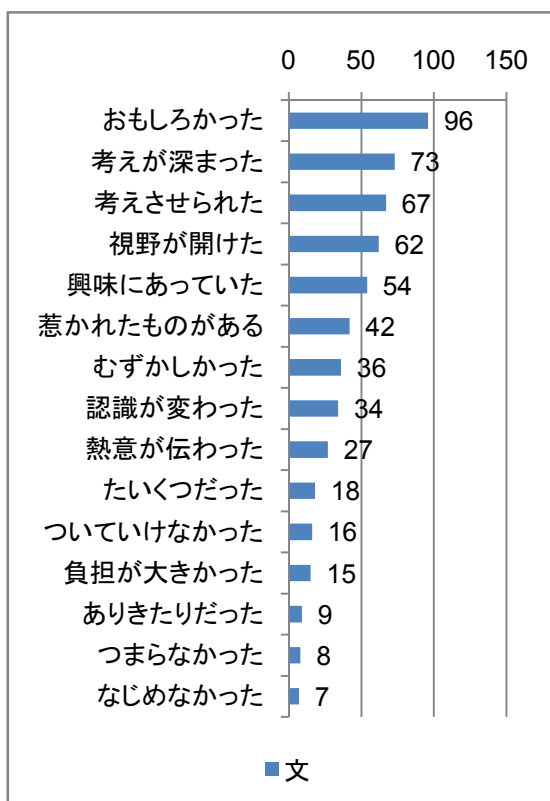
問1 「満足している」「得たものがある」「役に立った」

|                 | 満足している |    | 得たものがある |    | 役に立った |    |
|-----------------|--------|----|---------|----|-------|----|
|                 | 文      | 理  | 文       | 理  | 文     | 理  |
| あてはまる           | 70     | 9  | 85      | 18 | 61    | 13 |
| どちらかといえばあてはまる   | 60     | 15 | 65      | 7  | 46    | 10 |
| どちらともいえない       | 21     | 1  | 9       | 1  | 43    | 2  |
| どちらかといえばあてはまらない | 9      | 1  | 4       | 1  | 11    | 2  |
| あてはまらない         | 4      | 2  | 1       | 1  | 3     | 1  |
| 計               | 164    | 28 | 164     | 28 | 164   | 28 |



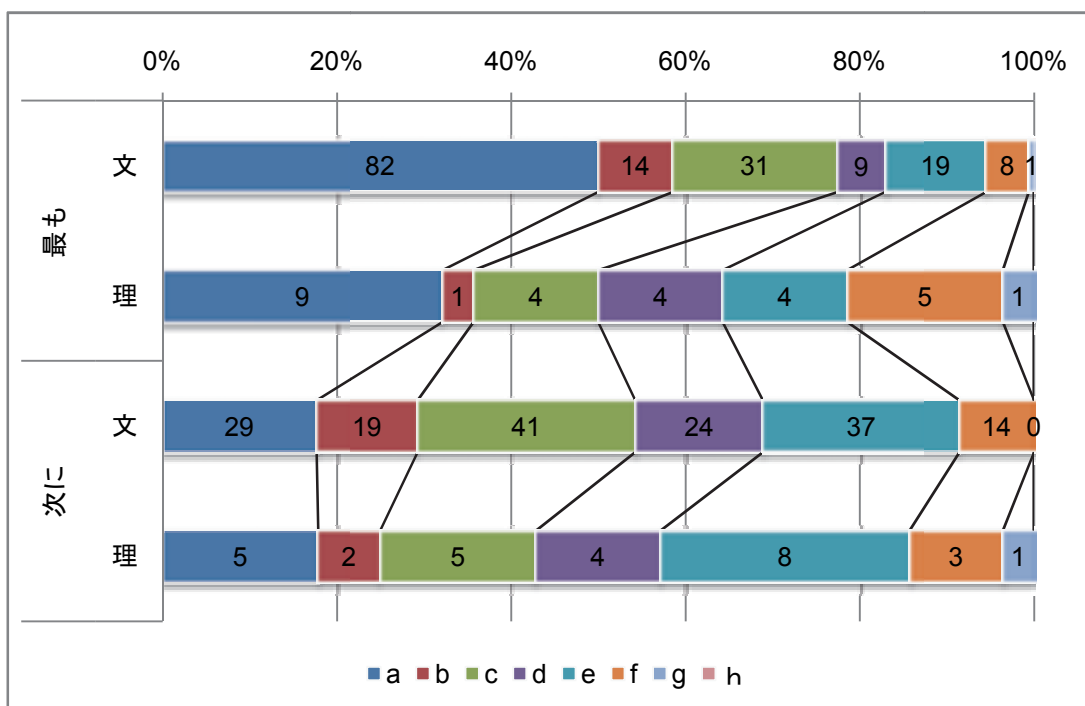
問2 「この授業についてあてはまるもの（三つまで）」

|           | 文  | 理  |
|-----------|----|----|
| おもしろかった   | 96 | 16 |
| つまらなかった   | 8  | 4  |
| 考えさせられた   | 67 | 13 |
| むずかしかった   | 36 | 7  |
| 考えが深まった   | 73 | 12 |
| 負担が大きかった  | 15 | 7  |
| 認識が変わった   | 34 | 9  |
| たいくつだった   | 18 | 3  |
| 興味にあっていた  | 54 | 11 |
| ありきたりだった  | 9  | 1  |
| 視野が開けた    | 62 | 10 |
| なじめなかった   | 7  | 2  |
| 熱意が伝わった   | 27 | 6  |
| ついていけなかった | 16 | 1  |
| 惹かれたものがある | 42 | 7  |



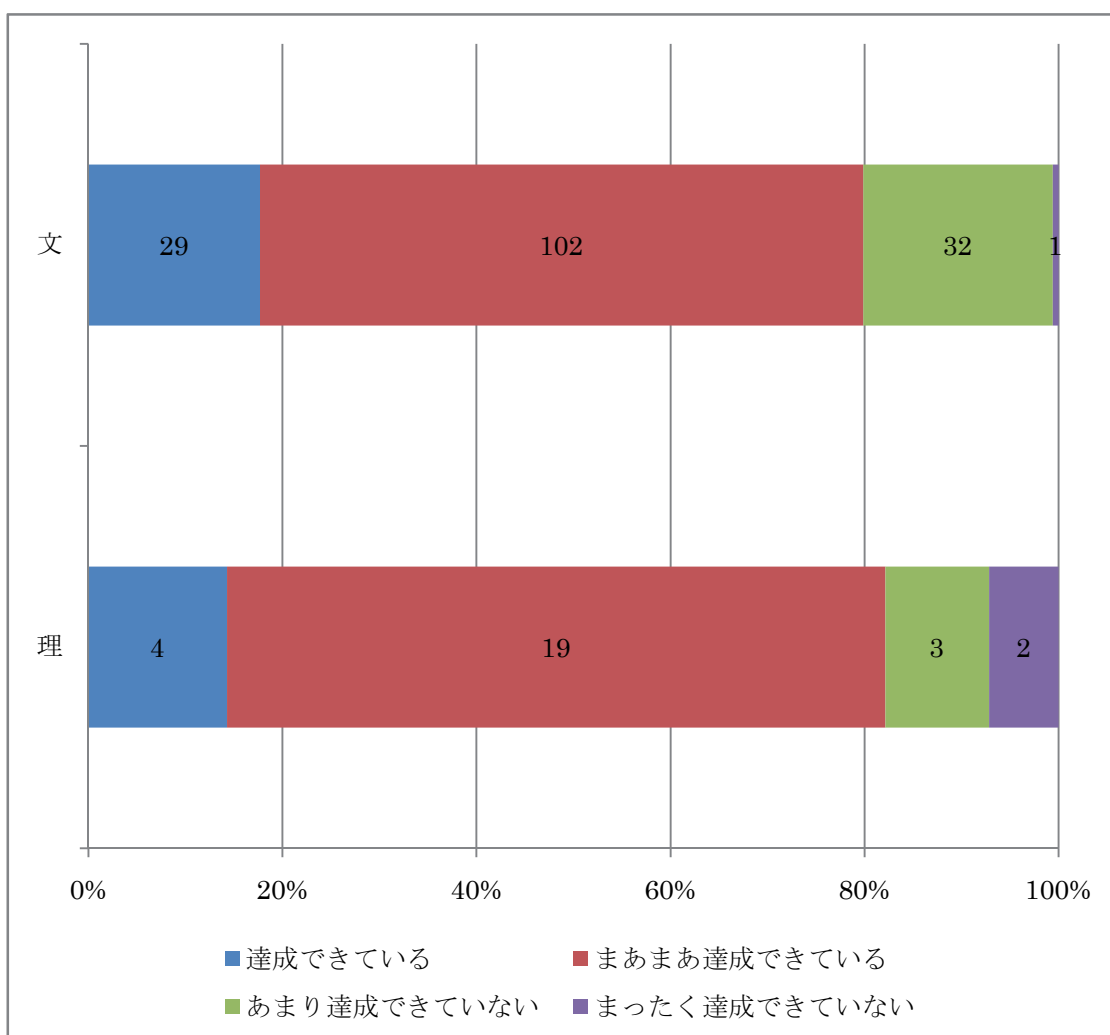
問3 「最も」「次に」

|   | 最も  |    | 次に  |    |
|---|-----|----|-----|----|
|   | 文   | 理  | 文   | 理  |
| a | 82  | 9  | 29  | 5  |
| b | 14  | 1  | 19  | 2  |
| c | 31  | 4  | 41  | 5  |
| d | 9   | 4  | 24  | 4  |
| e | 19  | 4  | 37  | 8  |
| f | 8   | 5  | 14  | 3  |
| g | 1   | 1  | 0   | 1  |
| h | 0   | 0  | 0   | 0  |
| 計 | 164 | 28 | 164 | 28 |



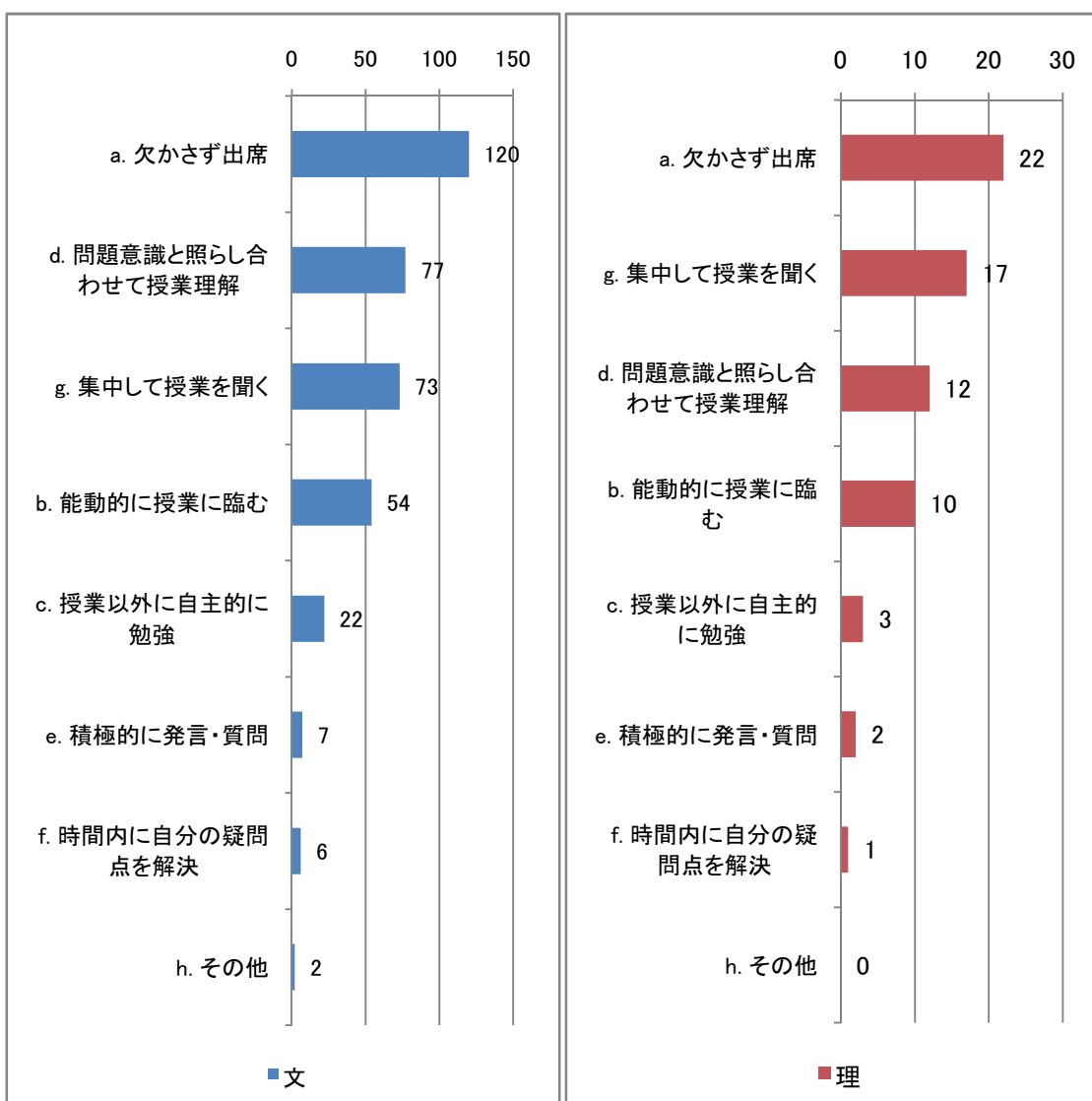
#### 問4 「達成度」

|              | 文 理 計 |    |     |
|--------------|-------|----|-----|
| 達成できている      | 29    | 4  | 33  |
| まあまあ達成できている  | 102   | 19 | 121 |
| あまり達成できていない  | 32    | 3  | 35  |
| まったく達成できていない | 1     | 2  | 3   |
| 計            | 164   | 28 | 192 |



問5「心がけていること（三つまで）」

|                     | 文 理 |    |
|---------------------|-----|----|
| a. 欠かさず出席           | 120 | 22 |
| b. 能動的に授業に臨む        | 54  | 10 |
| c. 授業以外に自主的に勉強      | 22  | 3  |
| d. 問題意識と照らし合わせて授業理解 | 77  | 12 |
| e. 積極的に発言・質問        | 7   | 2  |
| f. 時間内に自分の疑問点を解決    | 6   | 1  |
| g. 集中して授業を聞く        | 73  | 17 |
| h. その他              | 2   | 0  |



# 2009 年度学生による授業アンケート集計

## —学部・大学院比較版—

教育学部・大学院の授業を受講した学年の回生（学部・大学院）で集計を行った。その結果を報告する。

### 概要

- ・集計対象者は 295 件（うち学部生 243 件、大学院生 30 件、その他 22 件）である。
- ・問 0 「回生」「性別」
- ・問 1 「満足している」「得たものがある」「役に立った」
- ・問 2 「この授業についてあてはまるもの（三つまで）」
- ・問 4 「達成度」
- ・問 3 「最も」「次に」
- ・問 5 「こころがけていること（三つまで）」

---

### 問 0 「回生」「性別」

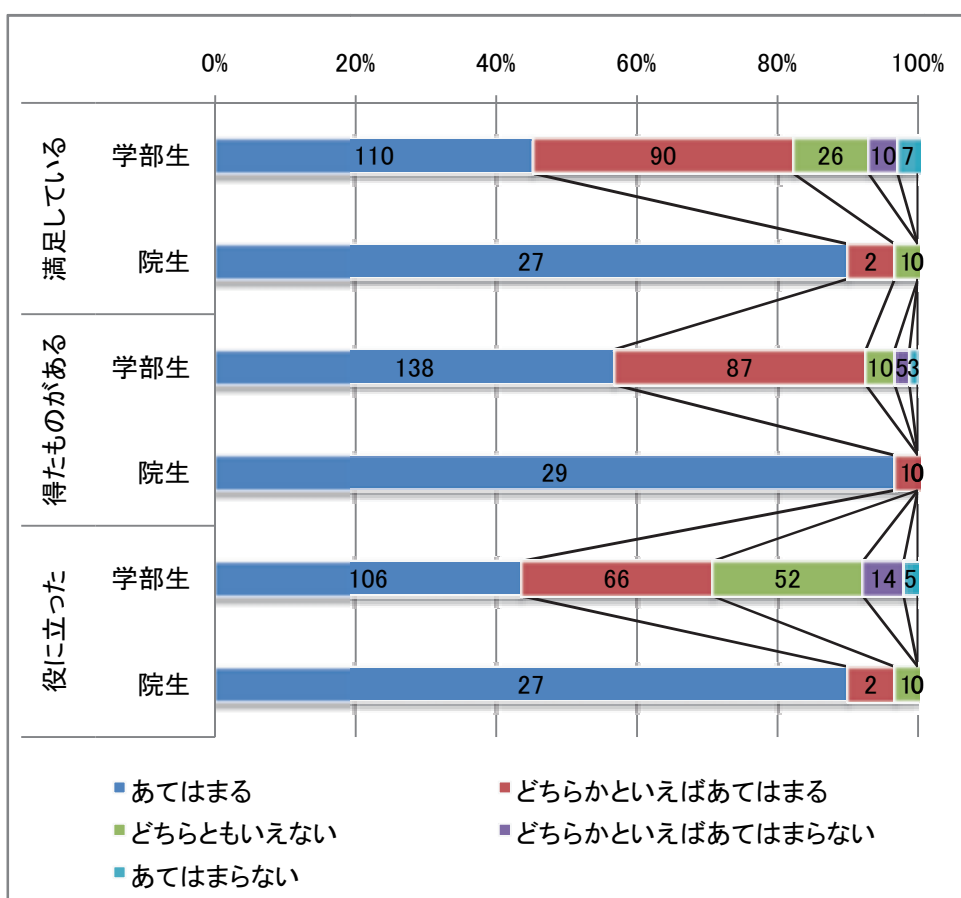
|     | 件数  |
|-----|-----|
| 学部生 | 243 |
| 院生  | 30  |
| その他 | 22  |
| 計   | 295 |

---

|     | 女   | 男   | 計   |
|-----|-----|-----|-----|
| 学部生 | 118 | 125 | 243 |
| 院生  | 15  | 15  | 30  |
| その他 | 9   | 13  | 22  |
| 計   | 142 | 153 | 295 |

問1 「満足している」「得たものがある」「役に立った」

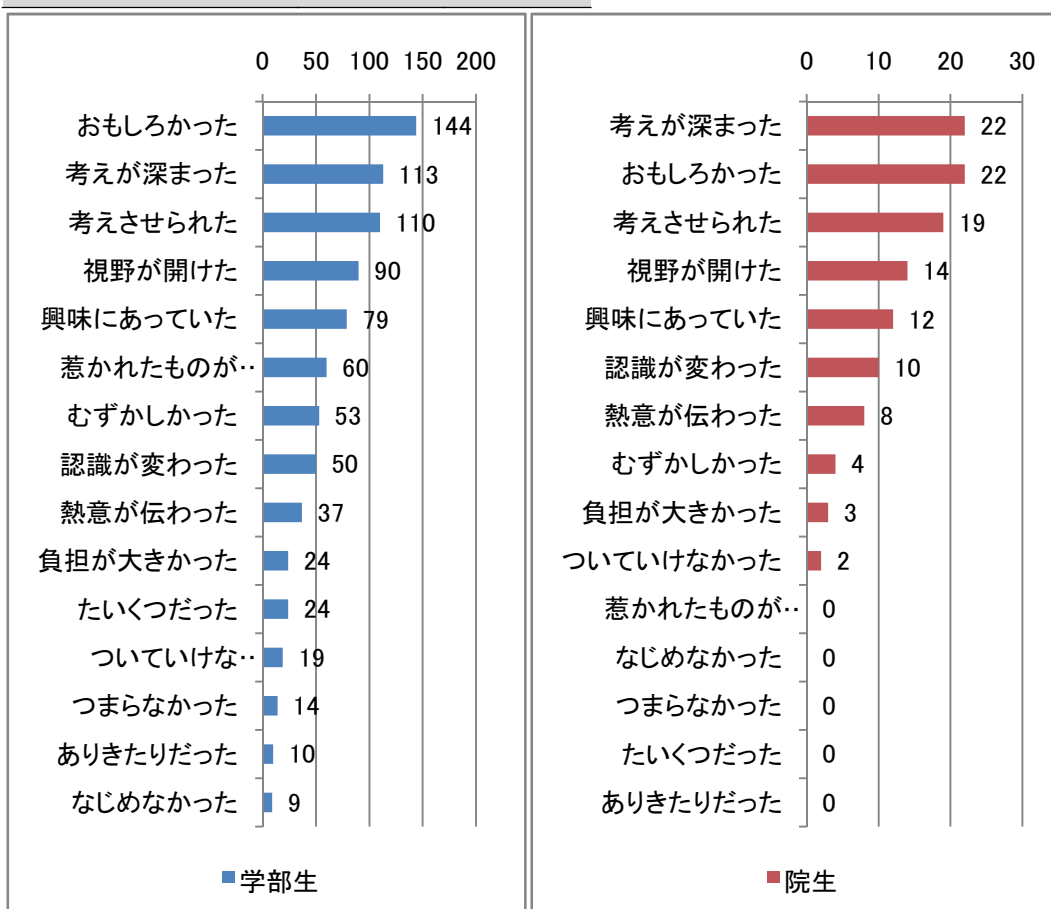
|                 | 満足している |    | 得たものがある |    | 役に立った |    |
|-----------------|--------|----|---------|----|-------|----|
|                 | 学部生    | 院生 | 学部生     | 院生 | 学部生   | 院生 |
| あてはまる           | 110    | 27 | 138     | 29 | 106   | 27 |
| どちらかといえばあてはまる   | 90     | 2  | 87      | 1  | 66    | 2  |
| どちらともいえない       | 26     | 1  | 10      | 0  | 52    | 1  |
| どちらかといえばあてはまらない | 10     | 0  | 5       | 0  | 14    | 0  |
| あてはまらない         | 7      | 0  | 3       | 0  | 5     | 0  |





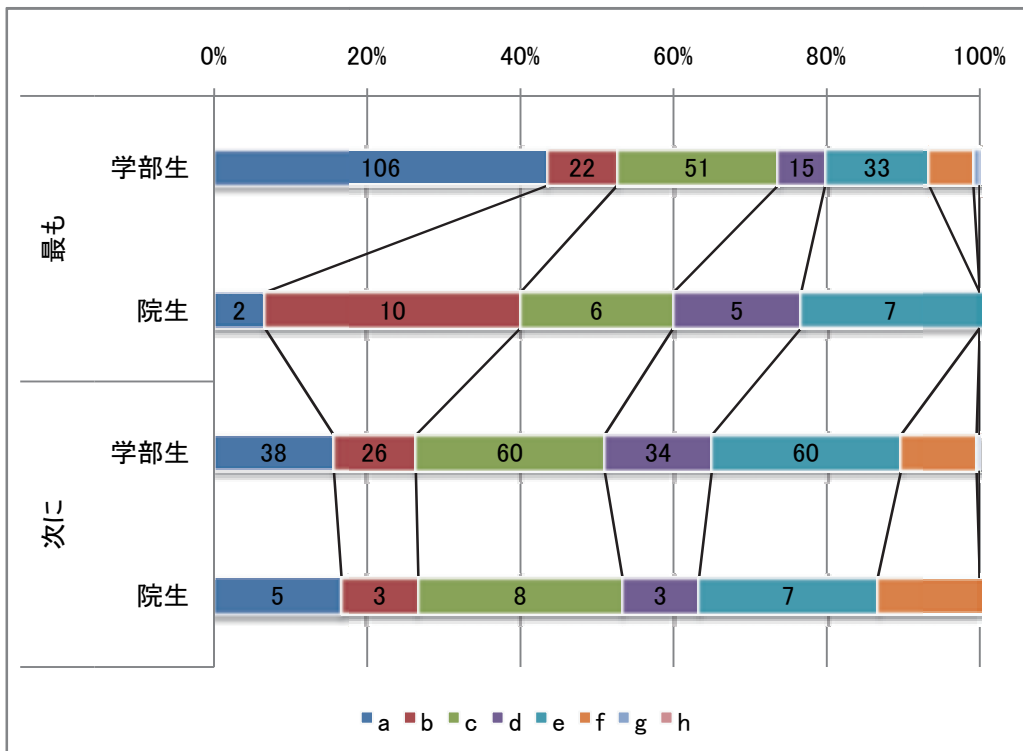
問2 「この授業についてあてはまるもの（三つまで）」

|           | 学部生 | 院生 |
|-----------|-----|----|
| おもしろかった   | 144 | 22 |
| つまらなかった   | 14  | 0  |
| 考えさせられた   | 110 | 19 |
| むずかしかった   | 53  | 4  |
| 考えが深まった   | 113 | 22 |
| 負担が大きかった  | 24  | 3  |
| 認識が変わった   | 50  | 10 |
| たいくつだった   | 24  | 0  |
| 興味にあっていた  | 79  | 12 |
| ありきたりだった  | 10  | 0  |
| 視野が開けた    | 90  | 14 |
| なじめなかった   | 9   | 0  |
| 熱意が伝わった   | 37  | 8  |
| ついていけなかった | 19  | 2  |
| 惹かれたものがある | 60  | 0  |



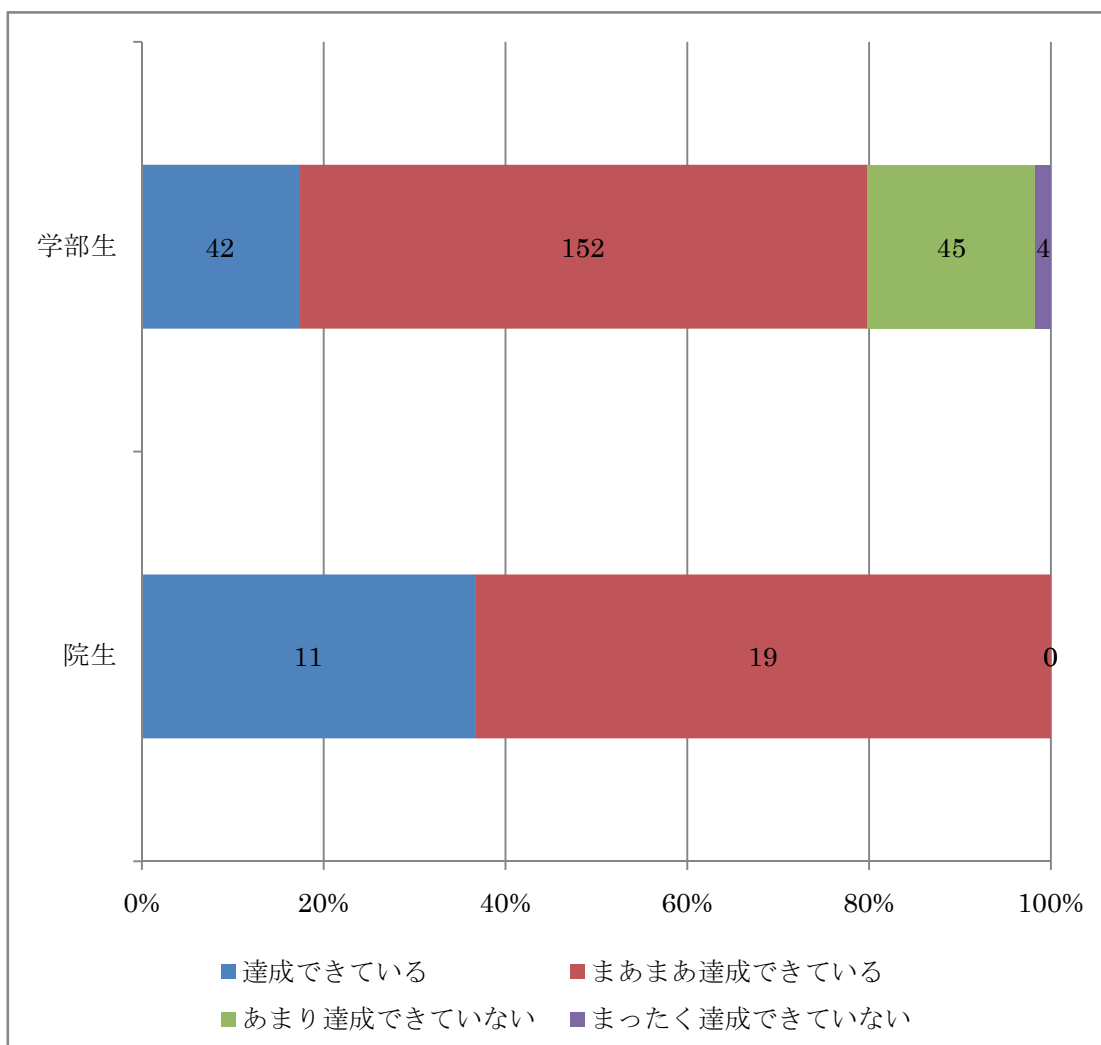
問3 「最も」「次に」

|   | 最も  |    | 次に  |    |
|---|-----|----|-----|----|
|   | 学部生 | 院生 | 学部生 | 院生 |
| a | 106 | 2  | 38  | 5  |
| b | 22  | 10 | 26  | 3  |
| c | 51  | 6  | 60  | 8  |
| d | 15  | 5  | 34  | 3  |
| e | 33  | 7  | 60  | 7  |
| f | 14  | 0  | 24  | 4  |
| g | 2   | 0  | 1   | 0  |
| h | 0   | 0  | 0   | 0  |



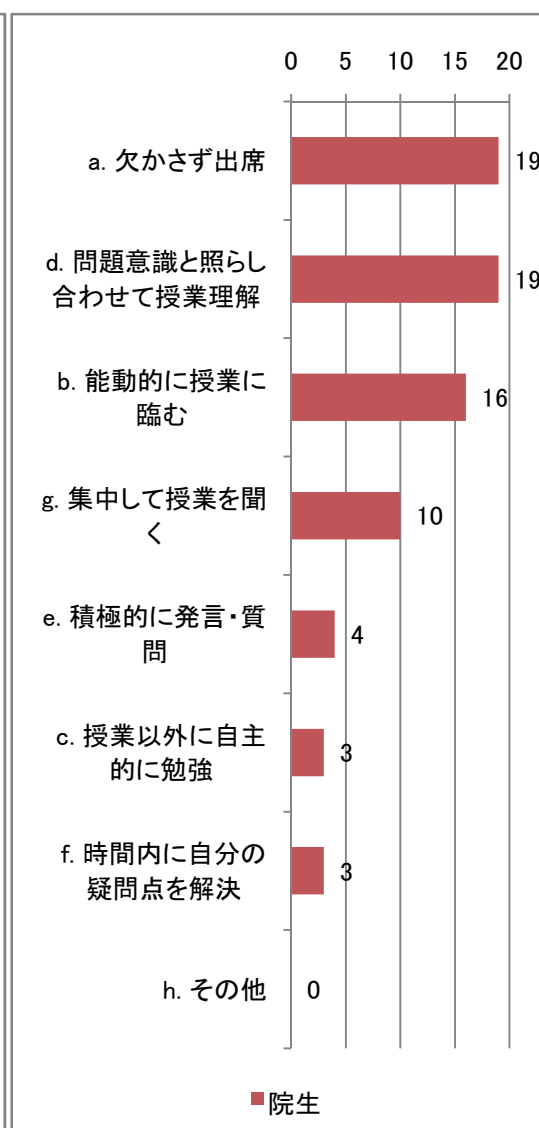
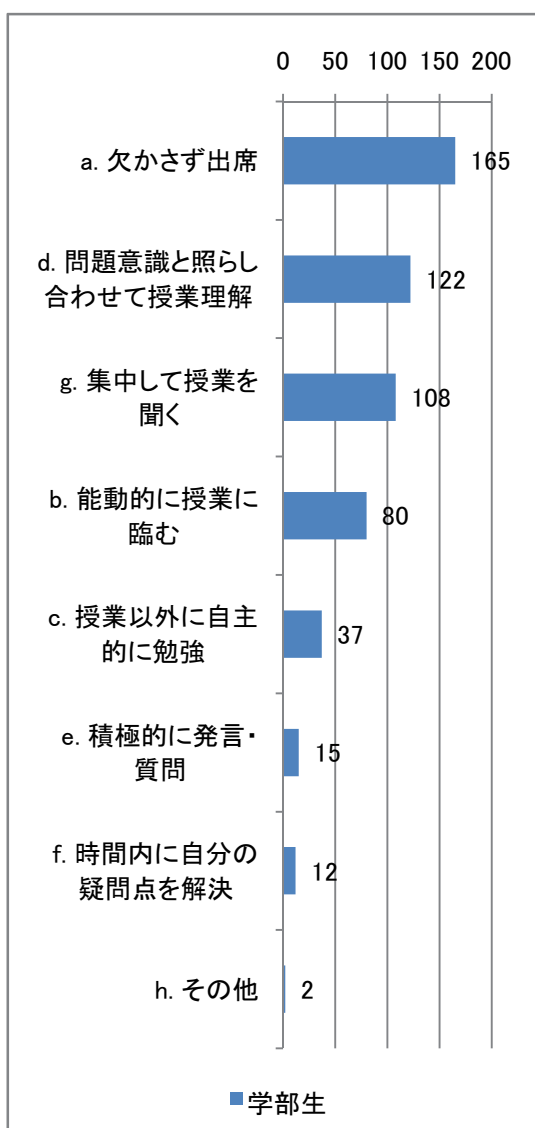
問4 「達成度」

|              | 学部生 | 院生 | 計   |
|--------------|-----|----|-----|
| 達成できている      | 42  | 11 | 53  |
| まあまあ達成できている  | 152 | 19 | 171 |
| あまり達成できていない  | 45  | 0  | 45  |
| まったく達成できていない | 4   | 0  | 4   |
| 計            | 243 | 30 | 273 |



問5 「こころがけていること（三つまで）」

|                     | 学部生 | 院生 |
|---------------------|-----|----|
| a. 欠かさず出席           | 165 | 19 |
| b. 能動的に授業に臨む        | 80  | 16 |
| c. 授業以外に自主的に勉強      | 37  | 3  |
| d. 問題意識と照らし合わせて授業理解 | 122 | 19 |
| e. 積極的に発言・質問        | 15  | 4  |
| f. 時間内に自分の疑問点を解決    | 12  | 3  |
| g. 集中して授業を聞く        | 108 | 10 |
| h. その他              | 2   | 0  |



## 2009 年度学生による授業アンケート集計

### —複数の問いの関係を比較—

2008 年度報告書で行った複数の問いの関係について、以下に示す。複数の問いの関係について、本年度の結果は昨年度の傾向と大きな相違が見られなかったため、資料とした。

|   |                      |
|---|----------------------|
| 1 | あてはまる                |
| 2 | どちらかといえばあてはまる        |
| 3 | どちらともいえない            |
| 4 | どちらかといえばあてはまるあてはまらない |
| 5 | あてはまらない              |

問1「満足しているかどうか」×問2「この授業について思ったこと」

|           | 1   | 2  | 3  | 4  | 5 |
|-----------|-----|----|----|----|---|
| おもしろかった   | 174 | 97 | 10 | 2  | 0 |
| 考えが深まった   | 124 | 66 | 19 | 5  | 1 |
| 考えさせられた   | 107 | 69 | 20 | 3  | 0 |
| 視野が開けた    | 107 | 54 | 15 | 1  | 0 |
| 興味にあっていた  | 103 | 42 | 9  | 0  | 1 |
| 認識が変わった   | 64  | 37 | 12 | 3  | 0 |
| 惹かれたものがある | 61  | 29 | 6  | 1  | 0 |
| むずかしかった   | 31  | 33 | 12 | 4  | 1 |
| 熱意が伝わった   | 35  | 22 | 5  | 4  | 2 |
| たいくつだった   | 3   | 9  | 15 | 9  | 6 |
| 負担が大きかった  | 10  | 13 | 1  | 1  | 3 |
| ついていけなかった | 5   | 11 | 2  | 5  | 2 |
| つまらなかった   | 1   | 4  | 4  | 10 | 4 |
| なじめなかった   | 0   | 4  | 4  | 6  | 3 |
| ありきたりだった  | 1   | 4  | 4  | 1  | 1 |

問1「得たものがあるかどうか」×問2「この授業について思ったこと」

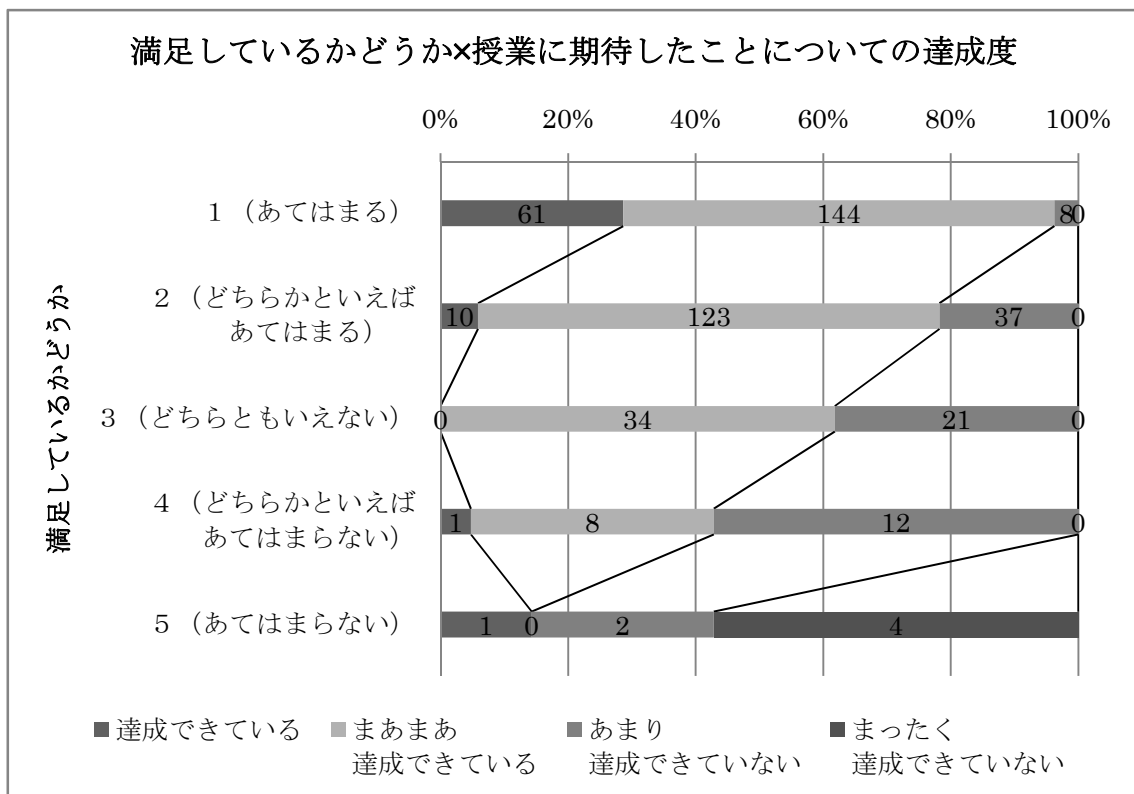
|           | 1   | 2  | 3 | 4 | 5 |
|-----------|-----|----|---|---|---|
| おもしろかった   | 195 | 83 | 3 | 2 | 0 |
| 考えが深まった   | 149 | 61 | 3 | 1 | 1 |
| 考えさせられた   | 131 | 61 | 6 | 1 | 0 |
| 視野が開けた    | 137 | 36 | 3 | 1 | 0 |
| 興味にあっていた  | 111 | 40 | 4 | 0 | 0 |
| 認識が変わった   | 82  | 32 | 2 | 0 | 0 |
| 惹かれたものがある | 67  | 28 | 0 | 2 | 0 |
| むずかしかった   | 40  | 35 | 3 | 2 | 1 |
| 熱意が伝わった   | 36  | 27 | 4 | 1 | 0 |
| たいくつだった   | 5   | 20 | 7 | 6 | 4 |
| 負担が大きかった  | 16  | 9  | 1 | 1 | 1 |
| ついていけなかった | 6   | 12 | 3 | 3 | 1 |
| つまらなかった   | 1   | 11 | 3 | 5 | 3 |
| なじめなかった   | 0   | 8  | 2 | 5 | 2 |
| ありきたりだった  | 2   | 7  | 1 | 1 | 0 |

問1「役に立ったかどうか」×問2「この授業について思ったこと」

|           | 1   | 2  | 3  | 4  | 5 |
|-----------|-----|----|----|----|---|
| おもしろかった   | 152 | 70 | 53 | 7  | 1 |
| 考えが深まった   | 116 | 54 | 39 | 5  | 1 |
| 考えさせられた   | 101 | 58 | 37 | 2  | 1 |
| 視野が開けた    | 101 | 45 | 28 | 3  | 0 |
| 興味にあっていた  | 94  | 39 | 17 | 5  | 0 |
| 認識が変わった   | 59  | 37 | 18 | 2  | 0 |
| 惹かれたものがある | 54  | 24 | 15 | 3  | 1 |
| むずかしかった   | 30  | 30 | 15 | 3  | 3 |
| 熱意が伝わった   | 29  | 20 | 14 | 4  | 1 |
| たいくつだった   | 2   | 8  | 17 | 10 | 5 |
| 負担が大きかった  | 11  | 9  | 4  | 3  | 1 |
| ついていけなかった | 2   | 11 | 7  | 4  | 1 |
| つまらなかった   | 1   | 3  | 6  | 8  | 5 |
| なじめなかった   | 0   | 4  | 6  | 4  | 3 |
| ありきたりだった  | 1   | 4  | 4  | 2  | 0 |

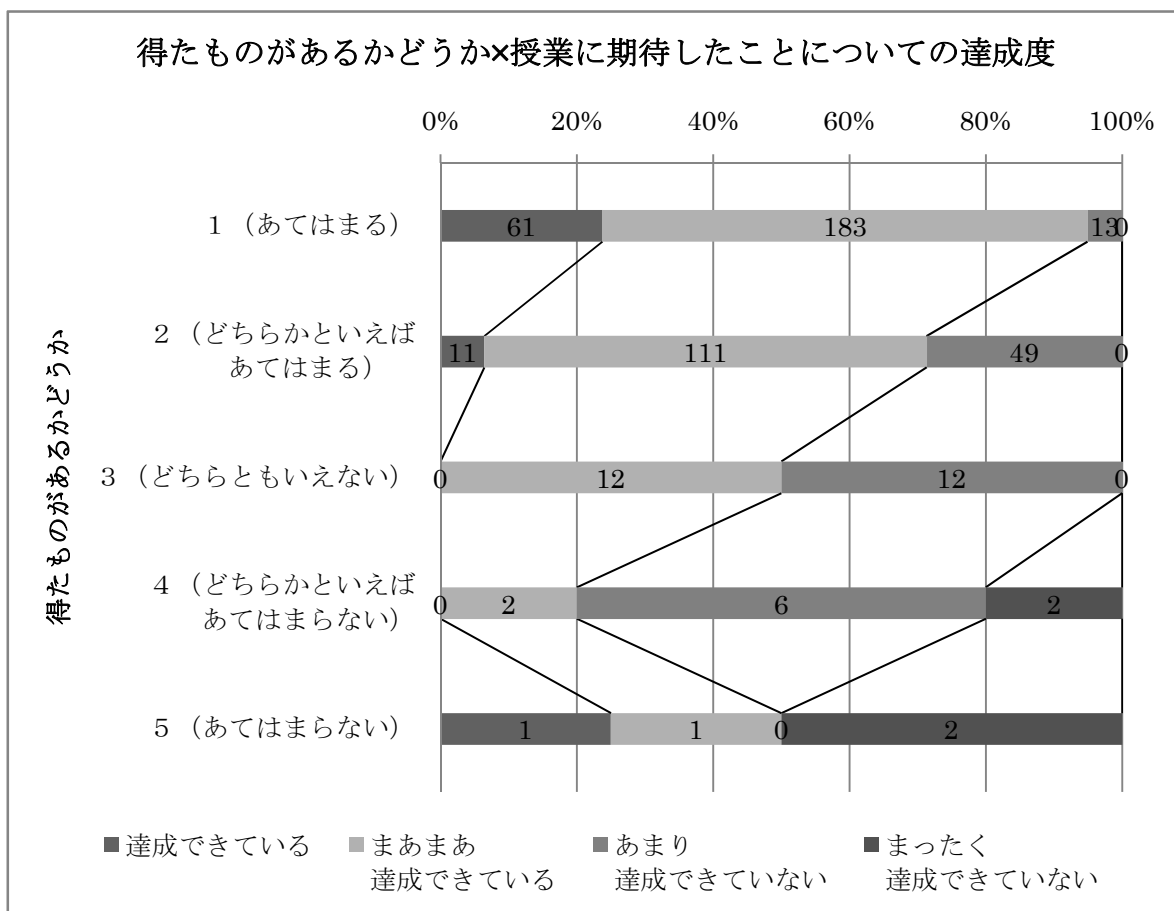
問1「満足しているかどうか」×問4「達成度」

| 満足しているかどうか             | 達成できている | まあまあ<br>達成できている | あまり<br>達成できていない | まったく<br>達成できていない | 総計  |
|------------------------|---------|-----------------|-----------------|------------------|-----|
| 1(あてはまる)               | 61      | 144             | 8               | 0                | 213 |
| 2(どちらかといえば<br>あてはまる)   | 10      | 123             | 37              | 0                | 170 |
| 3(どちらともいえない)           | 0       | 34              | 21              | 0                | 55  |
| 4(どちらかといえば<br>あてはまらない) | 1       | 8               | 12              | 0                | 21  |
| 5(あてはまらない)             | 1       | 0               | 2               | 4                | 7   |
| 総計                     | 73      | 309             | 80              | 4                | 466 |



問1「得たものがあるかどうか」×問4「達成度」

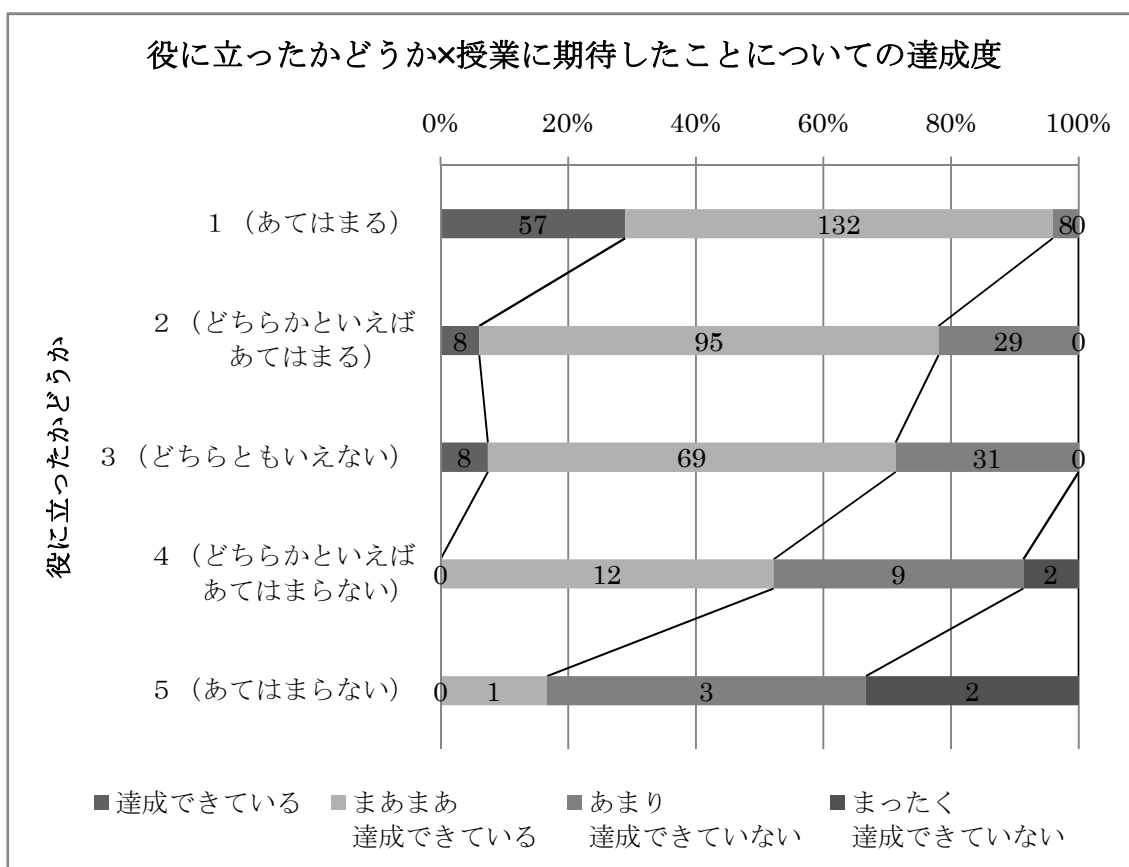
| 得たものがある                | 達成できている | まあまあ<br>達成できている | あまり<br>達成できていない | まったく<br>達成できていない | 総計  |
|------------------------|---------|-----------------|-----------------|------------------|-----|
| 1(あてはまる)               | 61      | 183             | 13              | 0                | 257 |
| 2(どちらかといえば<br>あてはまる)   | 11      | 111             | 49              | 0                | 171 |
| 3(どちらともいえない)           | 0       | 12              | 12              | 0                | 24  |
| 4(どちらかといえば<br>あてはまらない) | 0       | 2               | 6               | 2                | 10  |
| 5(あてはまらない)             | 1       | 1               | 0               | 2                | 4   |
| 総計                     | 73      | 309             | 80              | 4                | 466 |





問1「役に立ったかどうか」×問4「達成度」

| 役に立った                  | 達成できている | まあまあ<br>達成できている | あまり<br>達成できていない | まったく<br>達成できていない | 総計  |
|------------------------|---------|-----------------|-----------------|------------------|-----|
| 1(あてはまる)               | 57      | 132             | 8               | 0                | 197 |
| 2(どちらかといえば<br>あてはまる)   | 8       | 95              | 29              | 0                | 132 |
| 3(どちらともいえない)           | 8       | 69              | 31              | 0                | 108 |
| 4(どちらかといえば<br>あてはまらない) | 0       | 12              | 9               | 2                | 23  |
| 5(あてはまらない)             | 0       | 1               | 3               | 2                | 6   |
| 総計                     | 73      | 309             | 80              | 4                | 466 |





## 学生による授業アンケート（2009年度） - 質問用紙 -

京都大学 大学院教育学研究科・教育学部

この授業アンケートは、授業をより充実したものにすることを目的として実施するものです。授業を担当する先生やあなたを評価する目的で実施するものではありません。自分自身の授業への関わり方・授業のあり方などを振り返って記入してください。無記名で回答するようになっていきますので、皆さんの率直な意見を聞かせてください。このアンケート結果が成績などに反映されることはありません。

みなさんが書いてくださった結果については、フィードバックの機会を設ける予定です（今年の授業アンケートの結果は教育学研究科のホームページで見ることができます）。また、得られた結果を上記の目的以外に使用することはありません。ただ、報告書などに個人が特定されない形で掲載される場合があります。調査の対象となるのは、この授業です。

選択肢のある質問については、当てはまるものを選び、回答用紙（別紙のマークシート）の該当箇所の○を塗りつぶしてください。また、あなたの意見を記述する質問については、回答用紙の該当箇所の空欄に直接記述してください。

### 回答用紙（マークシート）の記入方法：

1. マークは必ずHBの黒鉛筆で正確にできるだけ濃く塗りつぶしてください。
2. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
3. マークシートを汚したり、折り曲げたりしないでください。

**問0.** あなたの所属・回生・性別について回答用紙の該当箇所の○を塗りつぶしてください。また、教育学部1、2、3回生の方は、入学試験を文系で受けたか理系で受けたかについて該当箇所の○を塗りつぶしてください。それ以外の方は、区別なしの○を塗りつぶしてください。

**問1.** この授業についてどのように思いましたか？ 次の問いに答えてください。

- (1) 「満足している」「得たものがある」「\*役に立った」のそれぞれの項目に対してどの程度当てはまるか、回答用紙の該当箇所の○を塗りつぶしてください。
- (2) 問1(1)の「\*役に立った」で、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を選択した人は、どのように役に立ったか回答用紙に具体的に記述してください。（自由記述）

**問2.** この授業をうけてみてどう思いましたか？ 回答用紙の選択肢から当てはまるものを全て選び、その○を塗りつぶしてください。（いくつでもかまいません）

**問3.** あなたがこの授業に期待するのはどんなことですか？ 「最も」当てはまるものと、「次に」当てはまるものを以下から選び回答用紙の該当箇所の○を塗りつぶしてください。

- a. 当該領域の全般的な知識や理解を深められること
- b. 当該領域で必要とされる方法論を身につけられること
- c. 当該領域に関わる自分の問題意識を磨けること
- d. 当該領域の主要な論点や最新動向に触れられること
- e. 当該領域の様々な議論や課題について、多面的な考察ができること
- f. 自分の問題意識やテーマが当該領域の中でどんな位置づけや意味をもっているかを検討できること
- g. その他 ( )

**問4. 問3で選んだことがらについて次の問いに答えてください。**

- (1) 問3で選んだことがらは、この授業ではどの程度達成できていますか？ 回答用紙の該当箇所の○を塗りつぶしてください。
- (2) 上記のように思う理由について回答用紙に詳しくお書きください。(自由記述)
- (3) (1)で「あまり達成できていない」「まったく達成できていない」と答えた方は、どのようにしたら、それらが達成できるようになるとおもいますか？(自由記述)

**問5. あなたがこの授業を受ける中で、心がけていることや気をつけていることはどんなことですか？  
(最も当てはまるものを3つまで選び、該当箇所の○を塗りつぶしてください)**

- a. 毎回、欠かさず出席するようにしている。
- b. 毎回、能動的に授業に臨むようにしている。
- c. 授業以外でも、自主的に勉強するようにしている。
- d. 自分の問題意識と照らし合わせて授業内容を理解しようと努めている。
- e. 積極的に発言し、教員に質問するように心がけている。
- f. 時間内に、自分の疑問点やわからないところをそのままにしない。
- g. 集中して授業を聴くようにしている。
- h. その他 ( )

**問6. 問5で挙げたことに取り組もうとするときに、授業のやりかたや時間の使い方などが今とは違っていればよいと考えることがありますか？ 工夫・改善した方がよいと思える点について書いてください。(自由記述)**

**問7. 昨年までの「学生による授業アンケート」について次の問いに答えてください。**

- (1) 昨年度までで、この「学生による授業アンケート」を回答した回数を回答用紙の選択肢から選び、○を塗りつぶしてください。
- (2) (1)について1回以上と答えた方は、そのアンケートを受けたことで自分自身が変化したところがありますか？ 変化の有無とその具体的内容を記述してください。(自由記述)

# 学生による授業アンケート 回答用紙

|           |  |                                |   |                                     |   |                                 |                          |
|-----------|--|--------------------------------|---|-------------------------------------|---|---------------------------------|--------------------------|
|           | 所属 (○を一つだけ選択)  | <input type="radio"/> 総合人間     | <input type="radio"/> 文                 | <input type="radio"/> 教育            | <input type="radio"/> 法                   | <input type="radio"/> 経済        | <input type="radio"/> 理  |
|           |  | <input type="radio"/> 医        | <input type="radio"/> 薬                 | <input type="radio"/> 工             | <input type="radio"/> 農                   | <input type="radio"/> その他 ( )   |                          |
| 問0        | 回生 (○を一つだけ選択)  | <input type="radio"/> 1回生      | <input type="radio"/> 2回生               | <input type="radio"/> 3回生           | <input type="radio"/> 4回生                 | <input type="radio"/> 5回生以上     | <input type="radio"/> 修士 |
|           |  | <input type="radio"/> 博士       | <input type="radio"/> 聴講生・<br>科目等履修生    | <input type="radio"/> その他 ( )       |   |                                 |                          |
|           | 性別 (○を一つだけ選択)  | <input type="radio"/> 男        | <input type="radio"/> 女                 |                                     |   |                                 |                          |
|           | 文系・理系入試<br>(○を一つだけ選択)  | <input type="radio"/> 文系入試     | <input type="radio"/> 理系入試              | <input type="radio"/> 区別なし          |   |                                 |                          |
| 問1<br>(1) | 満足している<br>(○を一つだけ選択)   | <input type="radio"/> あてはまる    | <input type="radio"/> どちらかといえば<br>あてはまる | <input type="radio"/> どちらとも<br>いえない | <input type="radio"/> どちらかといえば<br>あてはまらない | <input type="radio"/> あてはまらない   |                          |
|           | 得たものがある<br>(○を一つだけ選択)  | <input type="radio"/> あてはまる    | <input type="radio"/> どちらかといえば<br>あてはまる | <input type="radio"/> どちらとも<br>いえない | <input type="radio"/> どちらかといえば<br>あてはまらない | <input type="radio"/> あてはまらない   |                          |
|           | *役に立った<br>(○を一つだけ選択)   | <input type="radio"/> あてはまる    | <input type="radio"/> どちらかといえば<br>あてはまる | <input type="radio"/> どちらとも<br>いえない | <input type="radio"/> どちらかといえば<br>あてはまらない | <input type="radio"/> あてはまらない   |                          |
| 問1<br>(2) | 上記「*役に立った」で、「あてはまる」<br>「どちらかといえばあてはまる」<br>と答えた場合のみ記述 (自由記述)          |                                |   |                                     |   |                                 |                          |
| 問2        | 右記の選択肢から<br>あてはまるものを<br>全て選んで下さい<br>( <input type="radio"/> をいくつでも ) | <input type="radio"/> おもしろかった  | <input type="radio"/> つまらなかった           | <input type="radio"/> 考えさせられた       | <input type="radio"/> むずかしかった             | <input type="radio"/> 考えが深まった   |                          |
|           |  | <input type="radio"/> 負担が大きかった | <input type="radio"/> 認識が変わった           | <input type="radio"/> たいくつだった       | <input type="radio"/> 自分の興味に<br>あっていた     | <input type="radio"/> ありきたりだった  |                          |
|           |  | <input type="radio"/> 視野が開けた   | <input type="radio"/> なじめなかった           | <input type="radio"/> 熱意が伝わった       | <input type="radio"/> ついていけなかった           | <input type="radio"/> 惹かれたものがある |                          |

|         |   |                               |                                   |                                   |                                    |                         |                         |                         |                         |         |
|---------|---|-------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|---------|
| 問 3     | 「最も」当てはまるもの<br>(○を一つだけ選択)                                     | <input type="radio"/> a       | <input type="radio"/> b           | <input type="radio"/> c           | <input type="radio"/> d            | <input type="radio"/> e | <input type="radio"/> f | <input type="radio"/> g | その他 ( )                 |         |
|         | 「次に」当てはまるもの<br>(○を一つだけ選択)                                     | <input type="radio"/> a       | <input type="radio"/> b           | <input type="radio"/> c           | <input type="radio"/> d            | <input type="radio"/> e | <input type="radio"/> f | <input type="radio"/> g | その他 ( )                 |         |
| 問 4 (1) | 問 3 で選んだことからの達成度<br>(○を一つだけ選択)                                | <input type="radio"/> 達成できている | <input type="radio"/> まあまあ達成できている | <input type="radio"/> あまり達成できていない | <input type="radio"/> まったく達成できていない |                         |                         |                         |                         |         |
| 問 4 (2) | 問 4 (1) の理由について記述<br>(自由記述)                                   |                               |                                   |                                   |                                    |                         |                         |                         |                         |         |
| 問 4 (3) | 問 4 (1) で「あまり達成できていない」<br>「まったく達成できていない」<br>と答えた場合のみ記述 (自由記述) |                               |                                   |                                   |                                    |                         |                         |                         |                         |         |
| 問 5     | ここがけていること<br>(○を三つまで選択)                                       | <input type="radio"/> a       | <input type="radio"/> b           | <input type="radio"/> c           | <input type="radio"/> d            | <input type="radio"/> e | <input type="radio"/> f | <input type="radio"/> g | <input type="radio"/> h | その他 ( ) |
| 問 6     | 問 5 のことがらに取り組む際に<br>工夫・改善した方が良いと思うこと<br>(自由記述)                |                               |                                   |                                   |                                    |                         |                         |                         |                         |         |
| 問 7 (1) | 昨年度までに、この「授業アンケート」<br>に回答した回数<br>(○を一つだけ選択)                   | <input type="radio"/> 0回      | <input type="radio"/> 1回          | <input type="radio"/> 2回          | <input type="radio"/> 3回以上         |                         |                         |                         |                         |         |
| 問 7 (2) | 上記で「1回以上」と答えた場合のみ<br>「授業アンケート」回答による<br>自分自身の変化 (自由記述)         |                               |                                   |                                   |                                    |                         |                         |                         |                         |         |

## ■編集後記

今回の「学生による授業評価アンケート」は、今年度の自己点検・評価委員会のメンバーである稲垣恭子・齊藤智・西岡加名恵の3名が中心になって実施した。本アンケートも今回で5回目になり安定してきたことや、回答用紙を1枚にまとめることができたことによって、調査がスムーズに進行すると同時に、前回に増して高い回収率を得ることができた。調査に参加・ご協力いただいた多数の学生・院生の皆さん、本アンケートの対象授業として授業時間を使って全面的にご協力いただいた教員の皆さんには心からお礼申し上げます。

今回のアンケートは講義科目・演習科目の両方について実施したが、これまでの4回も含めて全体的に満足度が高いことが確認されたことは、教育学部の利点を生かした教育の成果として大きな収穫であった。しかし一方で、暫定評価においていくつかの課題が指摘されたことにより、急遽、年末に課題の究明のためのアンケートを実施することになった。満足度という点では高いものの、具体的などころではまだ課題は少ない。特に、授業アンケートではつかみにくい学生の実態や授業と学生生活との関係といったより質的な側面についてと同時に、授業に関連した指導体制やオフィスアワーの使い方などの制度的な側面についてもトータルに検討していくことが、委員会のなかでも課題として議論された。

斎藤・西岡両先生にはトータルに的確かつ積極的な委員会運営をしていただいたが、アンケートの実施にあたっては、今回も中池竜一助教に調査票の作成からデータ処理・グラフ作成に至るまで大変にお世話になった。また、報告書作成にあたっては野口剛助教にご協力いただいた。この場を借りて改めて感謝いたします。

(稲垣恭子)

### 2009年度 教育学部・教育学研究科授業評価報告書

発行日：2010(平成22)年3月10日

編集・発行：京都大学大学院教育学研究科・教育学部

印刷所：(株)北斗プリント社